

二 安東領事館帽兒山分館設置問題

2 昭和2年1月28日

幣原（喜重郎）外務大臣より
在安東岡田（兼一）領事宛

帽兒山に土地家屋管理のため警察官派遣につ

いて

亞二機密第七号

昭和二年一月二十八日

外務大臣男爵 壁原 喜重郎

在安東

領事 岡田 兼一殿

帽兒山ニ土地家屋管理者派遣ニ関スル件

本件ニ關シテハ在間島鈴木總領事宛往電第八号ノ通り不取
敢土地家屋管理ノ為間島ヨリ邦人巡查三名貴賈經由現地ニ
入込マシムルコトニ決定シ右ニ対スル援助方ニ關シ別紙第
一号写ノ通リ本大臣ヨリ斎藤總督宛依頼旁内報スルト同時
ニ別紙第二号写ノ通リ出淵次官ヲシテ湯浅政務總監宛本件
援助ニ關スル當方希望ノ次第ヲ照会セシメ置キタルニ付貴
官ハ予メ平北當局ト充分ナル打合ヲ遂ケ一方該派遣員ニ對

ト内示スルコト

本信写送付先 北京、奉天、間島、琿春

3 昭和2年1月28日

幣原外務大臣より
斎藤（実）朝鮮總督宛

帽兒山分館開設に関し朝鮮總督府へ援助依頼

について

付 記一 一月二十八日付岡田（勝次）外務次官より湯
浅（倉平）朝鮮總督府政務總監宛亞二機密第四
九号帽兒山分館開設に關し援助依頼について
二 二月四日付湯浅朝鮮總督府政務總監より岡田
外務次官宛警秘第一七号
帽兒山分館開設に關する援助の程度について
亞二機密第四八号

昭和二年一月二十八日

外務大臣男爵 壁原 喜重郎

朝鮮總督子爵 斎藤 実殿

帽兒山分館開設ニ關シ援助方依頼ノ件

在安東帝國領事館管内帽兒山ニ同館ノ分館開設方ニ關シテ
ハ往年当省へ御内議ノ次第モ有之本年度ニ於テ右開設ノコ

シテハ本件今日迄ノ経緯ヲ内示シ現地ノ実状ヲ參酌シ特ニ
左記諸点ヲ研究決定ノ上篤ト意ヲ含メ（指示事項要領ハ貴
官ヨリ平北側ニ通報シ本省へ報告ト同時ニ北京、奉天、間
島、及田中副領事ニ写送付相成度）可成至急同地ニ出發セ
シメラレ度尚ホ若シ支那側懷柔等ニ何等費用ヲ要スル場合
ハ其ノ旨電請相成度

記

一、派遣員ノ任務ハ開館ニ至ル迄ノ間土地家屋ノ管理ニ止
マルモノナルコトヲ心得シムルコト

二、派遣員ノ身分、任務等ヲ支那側ニ明示スルノ可否並支
那側ヨリ派遣員又ハ貴官ニ右ニ關スル問合等アリタル場
合ノ応答振ニ關シ講究ノ上内示スルコト

三、有事ノ際ニ於ケル派遣員ノ執ル可キ行動ニ關シ平北側
ト打合ノ結果ニ基キ詳細内示スルコト

四、派遣員ノ服装、護身用具、携行品ニ關シ内示スルコト

五、其ノ他本任務遂行ニ關シ貴官ノ必要ト認メラルル事項

（付 記一）

昭和二年一月二十八日

外務次官 出淵 勝次

朝鮮総督府政務総監 湯浅 倉平殿

帽児山分館開設ニ関シ援助方依頼ノ件

ノ連絡等ニ関シテモ予メ特ニ御配慮相煩シ度此段御依頼ス

記

本件ニ關シ本日付亞二機密第四八号ヲ以テ当省大臣ヨリ貴
總督宛依頼旁内報相成リタル通り今回在安東帝国領事館管
内帽児山ニ同館ノ分館ヲ開設スルコト相成其ノ開館ニ至
ル迄ノ間右分館用土地家屋（内々安東領事ノ手ニ於テ買收
シタルモノ）管理ノ為不取敢間島ヨリ邦人巡查三名ヲ安東
經由現地ニ向ハシムルコトニ決定シタル處御承知通リノ土
地柄故右管理中ニモ支那側ヨリ妨害ヲ受クルコトナキヲ保
シ難ク當方派遺員ニ対シテハ安東領事ヲシテ篤ト意ヲ含メ
シメ極力円満経過方ニ努力セシムル筈ニハ有之モ必要ノ場
合ニハ対岸中江鎮貴府官憲ノ応援ニ預リ度安東領事ニ対シ
テハ本件ニ關シ直接平北当局ト詳細打合ヲ遂ケ大体左記要
領ニ依リ處理方當省大臣ヨリ内訓相成リタリ就テハ本件ノ
極メテ機微ニ属スル事情御諒察ノ上貴府出先当該官憲ニ於
テモ安東領事ノ依頼打合ニ対シ協議援助相成様致度尚亦愈

分館開設ノ晚ニ於テモ館員寡少（副領事、書記生、警部各

一名巡査六名計九名）ナルト地理ノ關係上専ラ貴府側ノ援
助ニ預ルコト多大ナル儀ト思考セラルニ付貴我両先者

（付 記二）

警秘第一七号

昭和二年二月四日

朝鮮総督府政務総監 湯浅 倉平（印）

外務次官 出淵 勝次殿

（2月9日接受）

一、派遣員ノ任務ハ分館開館ニ至ル迄ノ間土地家屋ノ管理
ニ止マルモノナルコトヲ心得シムルコト
二、派遣員ノ身分、任務等ヲ支那側ニ明示スルノ可否並支
那側ヨリ派遣員又ハ安東領事ニ対シ問合等アリタル場合
ノ應答振ニ関シ内示スルコト
三、有事ノ際ニ於ケル派遣員ノ執ル可キ行動ニ關シ平北側
ト打合ノ結果ニ基キ詳細内示スルコト
四、派遣員ノ服装、護身用具、携行品ニ關シ内示スルコト
五、派遣員ハ可成至急現地ニ向ハシムルコト
六、其ノ他本任務遂行ニ關シ安東領事ニ於テ必要ト認ムル
事項ヲ内示スルコト

帽児山分館開設ニ關シ援助方依頼ノ件

一月二十八日亞二機密第四九号御依頼ノ件右援助ノ程度ニ

關シテハ支那側ハ集團力ヲ以テ妨害スルヤノ間モ有之候間

極メテ考慮ヲ要スルモノ有之候若シ領事分館設置ニ対シ支

那側カ反対ノ結果集團力ヲ以テ攻撃的ニ退去ヲ迫ルカ如キ

場合ニ於テ之ニ対シ當方モ攻勢ヲ以テ之レニ対抗スルカ如

キ場合ハ勿論單ニ分館预定地タル地点ヲ占拠スルヲ目的ト

越境スルノ要アルモノト思料セラレスル場合ハ寧ロ中江鎮

駐屯ノ我力守備隊ニ前以テ御依頼ノ上同守備隊ノ援助ニ依

ツテ決行致シ度當方ノ援助ハ領事分館員カ万一危険ノ為帽

児山ニ滞住スルコト能ハス止ムナク朝鮮側ニ引揚クルカ如

キ場合ニ江岸朝鮮側ニ於テ収容援助ノ程度ニ致度尤モ此ノ

場合ト雖當府警察官ハ支那側ニ越境進出シテ援助シ事ヲ構

フルカ如キコトハ不致候間右様御了知相成度平安北道ニ對

シテモ右趣旨ヲ以テ領事ノ要求ニ応シ候様通牒可致候モ一
応御意見承知致度候也

帽児山分館開設及派遣員ニ關スル件

今回帽児分館新設ニ關シ同地ハ未開放地タル關係上支那側
ノ開埠承認又ハ特種ノ諒解ヲ取付ケ然ル後開設セラルモノ
ト解シ居ル次第ナル處安東領事ヨリノ來信ニ拠レハ事前
ニ支那側ノ承認ヲ得ルコト困難ナルヲ以テ居据リ的ニ開館
スル計画ノ下ニ極秘裡ニ土地家屋ヲ入手セリトノ趣ナルモ
帝国近時ノ對支政策ニ照シ聊カ了解シ難キ点アリ要スルニ
右ハ既ニ土地家屋ヲ入手セル今日ニ於テモ尚ホ居据リ的ニ
開館スル次第ナルヤ又ハ事前承認乃至諒解ヲ求メラル義
ナルヤ予メ心得置キ度キ希望ニ付開館上ノ根拠主張動機並
ニ時期等併セ何分ノ義御内示相成ル様致度尚ホ若シ果シテ
無理押的ニ開館スルモノトセハ支那近時ノ風潮ノ動キニ鑑

ミ飽迄之ニ反対シ終ニ直接妨害行動ニ出ツルナキヲ保シ難

キノミナラス自他両動的不逞鮮人ノ妨害等モ亦無之トセ

従テ我方ニ於テモ硬軟両様ノ態度ヲ必要トシ而シテ小官ハ

右情勢ニ鑑ミ或ル時期迄ハ専ラ支那側各方面ノ懷柔接衝ニ

没頭セサルヘカラサル結果相当多難紛忙ヲ來スヘク予想セ

ラルル内外零細ノ事務ハ當分他館員ニ一任スルコトト相成

ルヘク然ル場合小官トシテハ新設事務ハ可成ク敏速處理シ

実質的ニ円満ナル經過ヲ期シ度キ意向ニ付館員書記生ハ後

日一段落ヲ告ケタル際減員スルコトトスルモ最初ハ是非二

名（支那語朝鮮語各一名トシ内一名ハ小官会計事務ニ経験

ナキ此際同事務ニ精通セルモノ）尚ホ警察官モ後日ノ増員

ハ支那側ノ感情上面白カラス且ツ土地柄其他特種事情ヲモ

御酌察ノ上是レ又最初可成ク多數配属方御詮議相成様致度

此段稟申ス

5 昭和2年3月10日 勝原外務大臣より
在中國芳沢（謙吉）公使宛（電報）

帽兒山領事館分館開設につき中國側に通報方

訓令

本省 3月10日 発

第一三四号

安東領事館管内帽兒山ニ同館ノ分館開設ノ件ハ大正十五年

度予算成立ト同時ニ本省ニ於テハ安東領事ヲシテ諸般ノ下

準備ヲ為サシメ來リシカ此ノ程其ノ準備成リ分館主任トシ

テ田中副領事ヲ珥春ヨリ安東經由近々同地ニ派シ開館セシ

ム手筈トナシ居レルニ付テハ貴官ハ適當ノ機会ト形式ニ

於テ支那側ニ對シ右開館ノ旨ヲ通報スルト共ニ其ノ諒解ヲ

得ラル様致度同分館受持区域ハ撫松、安図（此ノ二県ハ

間島ヨリ安東へ移属セシムル筈）長白、臨江ノ四県トスル

予定ナリ

本件ハ既存領事館ノ配下ニ一分館ヲ設置スルニ過キサルノミナラス大正四年ノ日支條約ノ關係上支那側ニ於テ之ニ不

同意ヲ唱フル理由ナキ儀ナルモ現下ノ風潮ニ鑑ミニ或ハ反対ナキヲ保シ難キ處其ノ際ハ今回ノ分館設置ハ専ラ實際上ノ見地ニ基キ鴨綠江筋ニ於ケル日支貿易狀況ノ考察（帽兒山ノ輸出入ハ大正十二年十四万円、十三年十六万円、十四年十七万円）進ンテハ日支經濟關係增進ヲ實地ニ就キ研究セシメタキト同時ニ安東領事館ノ管轄力江ニ沿フテ長崎為中間連絡ノ機關タラシメントスル次第ニシテ警察官ヲ付属セ

在安東 領事 岡田 兼一殿

帽兒山分館開設ニ關シ田中副領事へ注意事項示達方ノ件

田中帽兒山分館主任近々貴地經由赴任ノ筈ニ付同官立寄ノ際在支芳沢公使宛往電第一三四號訓令ノ内容ト共ニ別紙注

意事項本大臣ノ内訓トシテ貴官ヨリ同官ニ御示達相成度

本信写送付先 在支公使、在奉天總領事

（別紙）

帽兒山分館開設ニ關シ田中副領事へ注意事項

一、地域ニ付テ

帽兒山分館ノ受持區域ハ東辺道中撫松、安図（以上間島總領事館管轄ヨリ安東領事館ニ移属セシムル筈）長白及臨江ノ四県ヲ之ニ屬セシムル予定ナリ

二、対支關係

（1）開設ハ現地ニ於テ土地及家屋ヲ調達済ニ付北京奉天及安東ニ於テ支那側ニ其ノ旨通告シ其ノ諒解ヲ得セシムルコトトナリ居レリ

6 昭和2年3月14日 勝原外務大臣より

在安東岡田領事宛

帽兒山分館開設に關し田中副領事へ注意事項

内示について

亞二機密第二五号

昭和2年3月14日

外務大臣男爵 勝原 喜重郎

（2）支那官憲トノ接衝ハ円満ヲ旨トシ先方ニ於テ分館開設ヲ拒否スルカ如キ場合ハ交渉ヲ一切安東又ハ奉天ニ推委シ

現地ニ於テハ努メテ論争ヲ避クヘシ

(3) 支那側ハ之ヲ機会トシ又ハ承認交換条件トシテ既存ノ我警察（関東府系、長白、輯安二ヶ所）及憲兵（朝鮮系、長白一ヶ所）ノ撤廃ヲ要求スルコトアルヘキ處本件ニ付

テモ現地ニ於テハ其ノ交渉ヲ避ケ専ラ前項ニ依リ措置スヘシ

(4) 支那側カ直接行動ヲ以テ防害ヲ試ム場合ニ於テモ努メテ平和的態度ヲ以テ之ニ臨ミ身辺ノ直接危害ヲ防止スル為ニ要スル場合ノ外実力対抗ノ措置ヲ取ラサルコト

三、対鮮關係

(1) 朝鮮總督府並其出先トハ特ニ諸般ノ連絡ヲ密ナラシムルヲ要ス

(2) 但シ國際法上又ハ大局ヨリ見テ許容ス可カラサル同府ノ措置行動乃至要求ニ對シテハ固ヨリ許容ノ限りニ非ラス其ノ辯ノ處ハ可然取扱ハレタシ

(3) 大正十四年七月奉天ニ於ケル三矢干珍協定ハ日支間ノ条約ニ非ラサルヲ以テ之カ実施ニ關シ分館ニ於テ該協定ヲ表向キノ根拠法トシテ鮮支兩當局ニ交渉スルコトハ避クヘキ事ニ屬ス

昭和二年三月十四日

在琿春

副領事 田中 作

安東領事 岡田 兼一殿
帽兒山開館ニ關スル件

二 安東領事館帽兒山分館設置問題

帽兒山開館ニ關スル帝国政府ノ主張根拠等ハ未タ御内示ヲ得サルカ未開放地開館ハ當國ノ主權ト重大ナル關係アリ右カ滿蒙條約ニ依ル本邦人ノ滿州ニ渡來雜居スルモノノ増加ニ伴ヒ本来帝國カ支那ニ於テ有スル属人の管轄權ヲ一層厳密周到ニ行使セントシ而シテ帽兒山地方ニ於ケル實際問題トシテ鮮人ノ保護取締ヲ支那側ニ信賴委托シ能ハス自ラ之ニ當ル必要ヲ認メラレタルニ基クモノトスルモ免モ角事前承認ヲ経ルヲ原則ト致スヘキヤニ解セラルル處若シ御来示ノ如ク今回支那側ノ所謂商埠地外タル同地ニ乗込ミ無理押シ居据リ的ニ開館シ各種特權ヲ行使セントスルニ於テハ從來支那側ハ條約上ノ開放地ニ對シテモ種々ナル方法手段ヲ以テ開館ヲ妨害セル実例（現ニ當地開館ノ際モ支那側ハ連日馬車數台ヲ門前ニ配置シ館員ノ退去ヲ体能ク強要シタル事實ヲ残セリ）アリ況ニヤ支那近時ノ一般對外風潮及同地

(4) 対岸中江鎮ノ朝鮮側トハ相互ニ信号ヲ交換スルコト便宜ナルヘキニ付キ其組織並方法ニ關シ現地ニ付キ篤ト研究アリタシ

四、対関東府關係

同分館ノ受持区域ニ編入セラルヘキ地域内現存ノ警察機關ハ當然該分館ノ指導監督下ニ入ルヘキ筋合ナリ

五、分館ノ建物ニ付テ

(1) 土地及建物ハ東拓側ニ於テ經營スルコトナルヘシ

(2) 但シ差當リ目的地ニ在ル支那家屋ヲ利用スルカ同地ニ適当ノ一時借入家屋アラハ之ニ依ルノ外ナカルヘシ

7 昭和2年3月14日 在琿春田中副領事より
帽兒山分館開館に関する意見具申について
(3月22日接受)

機密一〇七号 昭和2年3月十四日
在琿春 (3月22日接受)

機密一〇七号 昭和2年3月十四日
在琿春 (3月22日接受)

機密一〇七号 昭和2年3月十四日
在琿春 (3月22日接受)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
昭和2年3月十四日付機密公領第一号写送付安東領事宛
機密公領第一号(写)

方対日民氣ノ險惡並ニ今福部長等入込ミ後ノ狀況等ニ鑑ミ余程微妙ナル作用ヲ以テ臨ミ空氣ヲ緩和シ少クトモ出先官憲ノ諒解ヲ取付ケサル限り彼等ハ必スヤ自他両動的妨害ニ出テ種々問題ノ惹起ト危險ノ招來ヲ免レス而シテ事後承認ハ将来前例ヲ残スコトトナリ支那側ニ於テモ容易ニ應諾スマシクスクテハ啻ニ本件ノミノ蹉跌ニ止マラス延テ我カ対支政策ノ遂行上重大ナル影響ナシトセス本官赴任ノ上ハ素ヨリ開館上一切障害ノ排除ニ善處スル考ナルモ要スルニ本件ノ成否ハ一一懸リテ支那側ノ態度如何ニ在リ若シガ迄反対セントセハ本官乘込ノ前後ニ拘ラズ継続的ニ干涉妨害ヲ敢行シ結局事後承認乃至諒解ヲ取付ケ得サル限り土地家屋ノ保護モ必要ナカラ肝腎ナル使命ヲ果スヲ得サルヘク憂慮セラル就テハ我方ニ於テ開館ヲ主張スヘキ一定ノ根拠ヲ有シ既ニ土地家屋ヲモ入手セル以上此際寧ロ今福等ヲシテ直ニ其ノ身分使命等ヲ明示セシメ之ニ依リ支那側ノ態度ヲ速ニ看取スル一方先ツ予メ承認ヲ求ムルコトニ力ヲ注キ而シテ土地家屋ハ是レ亦我方ノ権利ヲ以テ直接管理ニ當ルニ於テハ恐ラク實力占領等ノ暴挙ニ出テ間敷ク万一千斯ル舉ニ出テタル場合ハ其ノ儘逆用シ支那側ヲシテ管理セシムル措置

二 安東領事館帽兒山分館設置問題

ニ出ツル一方若シ事前承認ヲ得ルコト到底不可能ナルニ於テハ茲ニ於テ始メテ居据リ的ニ断行シ場合ニ依リテハ一時有力鮮人ノ家屋ニ於テ開館ヲ発表スルコトモ得ヘク而シテ徐々ニ承認ヲ取付ケ土地家屋ヲ回収スル方多少時日ヲ要スルトモ結果ニ於テ得策ナリト思考ス否ラスシテ現在ノ如ク実業家触込ミヲ以テ實際上他ノ行動ヲ取ルニ於テハ却テ怪疑ヲ深フシ更ニ本官等乗込ト同時ニ身分ヲ急変シタル為メ一層支那側ノ感情悪化シ強硬ナル干渉妨害ヲ受ケ半途引揚ケノ止ムナキニ至ル虞ナシトセス右不敢卑見申進ス

本信写送付先 外務大臣

8 昭和2年4月5日 在安東岡田領事より
幣原外務大臣宛（電報）

帽兒山分館敷地買収形式について

第四八号

9 昭和2年4月19日 在奉天吉田（茂）総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

交渉に先立ち田中副領事の帽兒山乗込み決行について

10 昭和2年4月30日 在奉天吉田總領事より
田中（義二）外務大臣宛（電報）

現地乗込み開館を決行すべき旨の意見具申に
ついて

11 昭和2年5月2日 在安東岡田領事宛（電報）

直ちに帽兒山分館の開館を実行すべき旨の訓
令

北京、安東へ転電セリ

北京、安東へ転電セリ

本電安東ヨリ帽兒山へ転電セシム

本電安東ヨリ帽兒山へ転電セシム

本省 4月30日後發

本省 5月1日前着

本省 4月5日後着

安東 4月5日後發

本省 4月20日前着

奉天 4月19日後發

本省 4月20日前着

帽兒山分館敷地買収形式ニ關シテハ客年十一月十二日發往電第六五号ヲ以テ一応申置キタルモ其後研究ノ結果商租ハ土地ノ使用目的及期間ニ制限アリテ官庁ノ敷地ニハ不適

ニ依リ開館セシメムトセハ却テ交渉上不利ヲ招キ去リトテ強力ニ依ラサレハ結局開館立惱ミトナル虞アリ就テハ既ニ北京ニテ一応ノ交渉ハ開カレタルコトニ付寧ロ交渉ニ先立チ朝鮮給督府ニ協議シ独力ヲ以テモ開館セシムル用意ヲ以テ田中副領事ニ帽兒山ニ乗リ込マシメ首尾ヨク乗り込ミタル上ニテ奉天側ニ対シ通告ヲ發シ諒解ヲ求ムルカ然ラサレハ現状ノ儘暫ラク対岸ニテ時機ヲ待テ張作霖ノ北京ニ於ケル失脚ノ時機即チ奉天支那側ノ氣勢落チタル時機ニ於テ乗リ込ミテ決行スルカ右何レカニ決定セラルルコト方法ヲ得タリト思考ス

当ナル嫌アルノミナラス地方官憲ハ商租契約解約ニ熱中シ居ル際ナルヲ以テ（本件土地買収ノ際作成セル商租永租二様ノ契約書ハ無登記ナル以上何レヲ提示スルモ支那側ハ契約無効ヲ主張スヘキモ）同地ヲ大正四年日支條約ニ依リ開放セラレタル一都市ト見做シ通商航海條約第四条ニ基キ永租契約ヲ締結セリト主張スル方得策ナルヤニ思料セラルルニ付其旨田中ニモ伝ヘ置キタリ

在支公使、在奉天總領事へ転電セリ

第一〇六号

安東發貴大臣宛電報第五八号ニ關シ
支那側出先官憲ノ態度同電ノ通リトセハ仮令当地ニテ交渉ヲ開始スルモ一片ノ交渉ニテハ容易ニ容諾セサルヘキハ支那側從來ノ態度ニ依ルモ明ニテ容諾セサル場合改メテ強力

二十九日付公文ヲ以テ交渉員ヨリ帽兒山分館開設ハ約定開

第一二二号

本大臣宛吉田總領事發電報第一二二号及本件ニ關スル貴見

二 安東領事館帽児山分館設置問題

ハ當方ニ於テモ全然同感ナルカ現地ニ於テ乗込ミノ時期ヲ

逸シ最早今日トナリテハ当初ノ計画ヲ変更致難キニ付田中ニ対シテハ單ニ本大臣ノ訓令トシテ直チニ帽児山ニ到り開館ヲ実行シ其旨支那官憲ニ通告スヘキ旨電報セラレ度

尚同副領事乗込後ノ保護方ニ就テハ奉天トモ連絡ヲ取り可然取計ハレ度

本大臣ノ訓令トシテ奉天ニ転電シ北京へ参考トシテ転電アリ度

12 昭和2年5月3日 在安東岡田領事より
田中外務大臣宛（電報）

帽児山乗込み遲延理由についての田中副領事報告

安東	5月3日後発
本省	5月4日前着

第七六号

田中副領事發本官宛電報

第三七号

大臣へ左ノ通り

開館決行最初ノ段取りハ素ヨリ吉田給領事御来示ノ通リナルモ乗込ミ今日迄遲延セルハ安東領事經由屢次電報申上ケ

タル通り左ノ理由ニ依ル次第ナリ
(一)調達済開館充當家屋ハ殘留支那人ヲ成ルヘク安全ニ引揚ケシメ入替リニ乗込ムコトニ安東領事トモ打合セ之力明渡シ方ニ關シテハ中間権利譲渡人タル閑谷ニ於テ引受クルコトトシ四月十六日中江鎮ニ到着シタル處何分支那側ノ警戒厳重ナルト事情ヲ知ラサル支那人ノ都合等ニ依リ容易ニ急速其ノ運ヒニ至ラス其ノ内閑谷ハ益々巡警ニ尾行サレ明渡シ督促ニ赴ク能ハスクテハ乗込ミ益々困難トナル虞アルヲ以テ本官トシテハ別ニ目下急工事ノ在帽児山普通學校家屋ニ依ル乗込ミ決行ヲ企図シタルカ之トテ二十九日頃ナラテハ明渡シノ運ヒニ至ラス一方予定家屋殘留ノ支那人ハ今ニ引揚ケス去リトテ対岸ノ形勢益々不利ニシテ他ノ家屋ヲ借入ルルコトモ不可能トナリ結局今日迄肝心ナル足溜リナカリシ次第ニテ此ノ点ハ安東領事ニ於テモ御承知ノコトト信ス

(二)開館計画實行ニ関スル秘密ハ特ニ朝鮮側ヨリ簡拔ケニ支那側ニ洩レ土地家屋保管ノ為三月一日中江鎮ニ到着セル今福等ニ於テサヘ當時既ニ支那側ニ奪取セラルル虞アリトシ安東領事ノ命ニ依リ直接家屋入込ミヲ避ケ全ク無關係ノ現

在殘留支那人ヲ使用シ辛シテ間接保管ヲ為シ來レル有様ニテ其後益々支那側ノ反対政策具体化シ之カ情報ニ接シツツ中江鎮ニ到着先ツ支那側内外両面ノ情勢ニ付精探ヲ遂ケタル結果シテ密偵入込ミ尾行渡船場及ヒ市中張込ミ現場知事等面会拒否及ヒ実力退去強要等数段ノ妨礙計画実行ヲ準備シ居ル事實アリ而シテ支那側政府カ我方ノ通告ニ對シ何等回答ヲ發セサルハ之ヲ握り潰シ密ニ地方官ヲシテ（脱）ノ行動ヲ執ラシメ居ルモノノ如ク然モ本官等ハ其間猶幾度乗込ミヲ企テ最後ハ四月二十六日一行ト協議ノ結果三十日迄ニ家屋殘留者ヲ引揚ケシメ五月一日ヲ期シテ積極的乗込ミ断行ヲ決意シ直ニ措置ヲ執ラントシタル処翌二十七日ヨリ遂ニ民衆反対運動起リ右計画実行モ亦不可能トナリ然モ本地ノ情勢ニ於テ知事等ハ上局ヨリ相当ノ訓令ナキ限り絶対反対ノ態度ニ出テ居レリ斯カル情勢ノ下ニ乗リ込メハ彼等ノ退去強要及土地家屋奪取ノ暴力的行動ハ即時ニ起ルヘク見工透キタル事柄ニシテ若シ右覺悟ノ上ナラハ何時ニテモ乗込ミヲ決行スヘキモ本官等ハニ任務ヲ重シトシ已ムナク時機ノ到来ヲ待チ居レリ事情右ノ如ク本官等ノ立場トシテハ全ク已ムヲ得ス乗込ミヲ見合セ安東領事ニ於テモ苦心

13 昭和2年5月5日 在奉天吉田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

莫省長に対する帽児山分館開設の交渉は朝鮮
総督府の保護同意取付けによる乗込み決行後

とする意向について

本省 5月5日後着

第一三四号

奉天交涉員よりの帽児山分館設置中止あり
本官発安東宛電報

第七二号

貴電第三九号ニ関シ

公第二五九号 昭和二年五月五日

(5月10日接受)

14 昭和2年5月5日 在奉天吉田總領事より
奉天交涉員よりの帽児山分館設置中止あり
い旨の照会及び我方の分館設置の根拠目的等
を述べた回答について

一行身辺保護方支那側へハ何時ニテモ交渉致スヘキモ省長
從来ノ遣リ口並ニ本件既ニ交渉員ヨリ抗議シ來レル手前容
易ニ承諾スヘシトモ思ハレス仮ニ容諾スルモ我方希望ノ如
ク直ニ出先官憲ニ手配スヘキヤモ頗ル疑ハシク結局ハ強制

乗込ミノ外ナク又強制乗込ミニ依テ支那側カ已ムヲ得スシ
テ遂ニハ我要求ヲ承認スヘキカト考ヘラルニ付テハ朝鮮
側ノ援護カ第一ノ必要ニテ朝鮮側トノ話付キタル上ニテ支
那側ニ保護方申入ルルニ於テハ又或ハ朝鮮側ノ保護ナクシ
テ乗込ムコトヲ得ル様ノ話合ヒニナルヤモ知レス仮令支那
側カ拒ムモ乗込決行スルコトトナラハ我要求モ威力アルコ
トトナルヘケレハ貴官ヨリノ朝鮮側ノ同意取付ノ結果ヲ待
チ貴電御來示ノ通り取計フコトト致シタシ

大臣、北京へ転電セリ

外交部特派奉天交涉員署 為
照会事案拠臨江縣農商教等会全体有電内称日方擬在臨江設
領事分館已派副領事田中作帶同隨員來臨調查以便開館並有
駐安領事電請県署警所保護請嚴重抗議等情查設置領事分館
慮根拠約章在商埠地內或約開埠地此外内地均無設置之權帽
兒山既非約開商開埠又無條約之根拠似此驟然越軌行動實屬
藐視約章之行為按法揆情斷難承認拠電前情除轉安東交涉員
署就近抗議外相應照請

貴總領事即希查照務望顧念邦交尊重約章從速轉飭安東領事
及早中止即刻將田中作調回以敦睦誼免生意外枝節盼速弁見
復為荷此照会

大日本駐奉總領事吉田

署理外交部特派奉天交涉員高清和(印)

中華民國十六年四月二十八日

(別紙乙号)

外交部特派奉天交涉員署
外字三九号 照会

14 昭和2年5月5日 在奉天吉田總領事より
奉天交涉員よりの帽児山分館設置ニ關スル件
本件ニ關シ當地交渉員ヨリ帽児山ハ日支兩國條約上ノ開放
商埠地ニ非サルヲ以テ日本政府ニ於テ分館ヲ設置スルノ権
利ナシ速ニ右計画ヲ中止シ田中副領事ヲ呼戻アリ度旨別紙
甲乙号写ノ通照会アリタルニ付本件設置ノ根拠並其目的等
ニ關シ別紙丙号写ノ通回答シ置ケリ右報告ス
本信写送付先 在支公使、安東領事
(別紙甲号) 外字三四号 照会

外務大臣男爵 田中 義一殿 総領事 吉田 茂(印)
帽児山分館設置ニ關スル件

本件ニ關シ當地交渉員ヨリ帽児山ハ日支兩國條約上ノ開放
商埠地ニ非サルヲ以テ日本政府ニ於テ分館ヲ設置スルノ権
利ナシ速ニ右計画ヲ中止シ田中副領事ヲ呼戻アリ度旨別紙
甲乙号写ノ通照会アリタルニ付本件設置ノ根拠並其目的等
ニ關シ別紙丙号写ノ通回答シ置ケリ右報告ス

本信写送付先 在支公使、安東領事

在奉天

昭和二年五月五日

(5月10日接受)

為
照会事案准安東交涉員艶電内称交渉署高署長鑒勘電敬悉此
案業拠臨江縣知事暨各團體電報到署經本署與駐安日領嚴重
抗議要求撤退所派人員拠岡田領事稱臨江設立分館曾經駐北
京芳沢公使向外交部正式交涉已得王次長許可並總部諒解故
於本年三月十一日由日公使正式通知外部事隔多日迄無否認
乃由京派田中副領赴臨事在必行要求諒解當駁以無論如何在
未奉省令前斷難承認請即撤退該領堅執異常除與駐安日領繼
續嚴重交涉並呈報省署外希即提向駐奉日總領事抗議一致力
爭以維主權等因查此案前拠臨江縣請願團儉電到署業以第三
四号公文照請貴總領事查照轉飭安東領事及早中止並分別電
致安東交涉員臨江縣請願團查照有案尚未准復茲前因相應
再行照請

貴總領事煩即查照先今各文從速轉飭安東領事及早中止並將
田中撤回此事關係約章務請審慎處弁在未奉省令前慎勿強制
堅行以維敦誼而免別生枝節結果如何仍煩速復此照電

大日本駐奉總領事吉田

署理外交部特派奉天交涉員高清和(印)

中華民國十六年五月三日

(別紙丙号)

公文第二八七号

昭和二年五月四日

在奉天

総領事 吉田 茂(印)

奉天交渉署長 高 清和殿

拝啓陳者臨江県帽兒山領事分館設置ノ件ハ既ニ在支帝國公使館ヨリ貴国外交部へ通牒済ニ有之外字第三四号貴信ニハ同地ニ分館設置ノ條約上ノ根拠ナシトアルモ大正四年日支條約ノ存スル以上貴国政府カ今更本件ニ付異議ヲ容ルヘキニ無之且又右分館設置ノ目的ハ鴨綠江筋ニ於ケル貴我貿易狀況ノ調査貴我經濟關係ノ増進ノ為ニシテ安東領事館ノ沿江管轄地方遠キニ失シ中間連絡ノ機関ヲ欠クヲ以テ今回帝國政府カ遂ニ田中副領事派出ニ決定セル次第ナレハ沿江通商ノ増進ヲ念トセラル以上貴国政府ニ於テモ右設置ノ趣旨ヲ篤ト諒解セラレ開館設置準備ノタメ貴地方ニ赴キタル田中副領事一行ニ対シテ充分ノ便宜供与相成候様致度此段照覆旁得貴意候

敬 具

安東へ暗送ス

16 昭和2年5月16日

田中外務大臣より
在中国芳沢公使宛(電報)

帽兒山分館設置は條約上中國側の同意を要す

る筋合に非ざる旨申し入れ方について

本省 5月16日後発

貴電第五五三号ニ閑シ

帽兒山分館ノ受持三属スヘキ四県ハ大正十三年乃至十五年ノ調査ニ於テ内地人七十五名朝鮮人三万八百六十名ヲ算シ居リ我方トシテ分館設置ノ必要ナルコト往電第一三四号ノ通リナルカ本件ハ條約上先方ノ同意ヲ要スル筋合ニ非サルモ日支ノ親交關係ニ鑑ミ相互ノ誤解ヲ避ケムカ為予メ申入レ置クニ過キサルニ付右ノ趣旨ニ依リ支那側ニ誤解ナカラシムルコトニ御尽力相成度尙ホ開館遷延スルニ從ヒ紛糾ヲ増ス虞アルニ付奉天總領事ニ別電第一七六号ノ通リ電訓セルニ付御含ミ置キアリタシ

編注 別電第一七六号は後掲一七文書と同文

二 安東領事館帽兒山分館設置問題

編注 別電第二八七号は前掲一六文書と同文

15 昭和2年5月9日 在奉天吉田総領事より 田中外務大臣宛(電報)

田中副領事に帽兒山分館乗込みを嚴命すべき

意見具申について

奉天 5月9日後発

本省 5月9日後着

第一三八号

安東發貴大臣宛電報第八五号及ヒ拙電第一三七号ニ閑シ岡田領事ノ談話及ヒ省長ノ話振リニ依ツテ考フルニ帽兒山分館設置ノ儀ハ支那側カ飽ク迄モ我カ希望ヲ峻拒スル迄ノ意無ナキカ如ク田中カ逡巡ノ結果問題化シタルヤニ考ヘラル然レトモ既ニ今日トナリテ猶田中ヲ乘込マシムルハ相当ノ保護ノ手段ヲ尽ササレハ出先出張者ノ迷惑モ嘸カシト察セラルニ付テハ岡田領事電稟ノ通り警察官十五名增員ノ儀御認可相成ルカ又ハ朝鮮側ノ援護ニ付更ニ本省ヨリ申送ラルルカ何レトモ保護方法御決定ノ上田中ニ対シ即刻乗込厳命セラレ田中肯セストセハ不敢警察官ノミヲ乗込シメ開館セシムルト共ニ分館ヲ差当リ分館タル標表ヲ外部ニ掲ケサルコトニシテ知事側ノ默認ヲ得ルニ努メシメテハ如何カト存ス

17 昭和2年5月16日

田中外務大臣より
在奉天吉田総領事宛(電報)

朝鮮總督府側と協議の後田中副領事又は他の
館員をして即時帽兒山分館の開設を実施すべ
き旨訓令

本省 5月16日後発

第六四号

在支公使發本大臣宛電第五五三号ニ閑シ

別電第六五号ノ通リ芳沢公使ヘ回訓シタルニ付貴官ニ於テ往電第六三号ニ依リ朝鮮側ノ援助ニ閑スル協議ヲ遂ケラレタル上ハ一応田中ヲシテ乗込ヲ実行セシメ度キ考ナルコト右往電末段ノ通リナルモ同人ニ於テ此際開館ヲ決行シ得サル事情アルニ於テハ他ノ館員、警察官ヲシテ不敢帽兒山ニ赴キ開館ヲ実行セシメ時期ヲ見テ田中ヲシテ赴帽兒山ルコトトスルモ差支ナキニ付岡田トモ御協議ノ上右即時実施方可然取計ハレ度シ

尚ホ貴官京城ニ於ケル協議ノ結果ハ當方ニ転報アリタシ

右別電ト共ニ本大臣ノ訓令トシテ安東へ転電アリタシ

二 安東領事館帽児山分館設置問題

18 昭和2年5月17日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)
帽児山分館乗込みの日取確定後中國側に一方的通告を行う意向について

北京 5月17日後発
本省 5月17日後着

本使発在安東領事宛電報
第五五七号

本使発在安東領事宛電報
第二号

大臣発本使宛電報(二六文書)
第二七五号ニ閑シ

分館開設ニ閑スル外交部宛公文ハ若シ支那側ニ於テ開館ヲ承認セサル場合ニ於テモ右発送後時ヲ移サス田中ニ於テ乗込ヲ決行シ「フェタコムブリ」ヲ設定シ得ル様一方的通告ノ形式ヲ以テ發シタルモノナル處其後予想外ニ遷延ヲ重ネタル為右本使ノ通告ニ対シ今回支那側ヨリ正式ノ拒絶通告ニ接スルニ至リタル處事態既ニ茲ニ至レル以上今更外交部又ハ楊宇霆ニ談込ムモ乗込ノ日取見込付カサル状態ニテハ益々事態ヲ悪化スヘキニ付右乗込ノ日取真ニ確定ノ上ハ前記大臣來電ノ趣旨ヲ含ミテ一方的通告ヲ為シ之ト同時ニ又

北京、奉天へ転電セリ

20 昭和2年5月23日 在安東岡田領事より
田中外務大臣宛(電報)

帽児山分館開設に非常手段を用いることの悪

影響についての田中副領事の意見

安東 5月23日後発
本省 5月23日後着

第一〇四号

田中発本官宛電報

第五九号

北京、奉天へ転電アリタシ

大臣へ左ノ通リ

今回ノ帽児山開館ハ日支協約反対以来最初ノ施設ニ係リ本官等ハ素ヨリ御訓令ニ基キ成ルヘク速ニ平和的ニ必成ヲ期シツツアル次第ナル處之カ成否ハ今後ノ開館上一慣例ヲ開

クコトトナルヲ以テ支那側ニ於テモ今ヤ中央地方共出来ル限り学生中心ノ民衆ヲ使嗾動シ各地官民団体ニ檄ヲ飛ハ

シ直接行動ヲ起ス等盛ニ其ノ間ニ民論ノ高調ニ努メツツアル形勢アリ而シテ此ノ際乗込メハ忽チ開館及土地家屋所有

ハ一両日ノ後ニ必ス現場乗込ヲ断行シ既成事實ノ形成ニ努力ノ要アリ就テハ右乗込ノ確定日取御電報アリタン
大臣及奉天へ転電セリ

19 昭和2年5月17日 在安東岡田領事より
田中外務大臣宛(電報)
帽児山分館乗込み援助に関する吉田総領事と

北京 5月17日後発
本省 5月17日後着

朝鮮總督府との協議について

第九五号

往電第九三号ニ閑シ

吉田総領事ヨリ
京城ニ出張シ總督府ト種々協議ノ処三矢協定ノ手前公然ノ援助ハ為シ難キモ出来得ル限リノ援助致スヘシトノコトナリ就テハ朝鮮側ノ内意ヲ田中ニ充分呑込マシメ乗込決行ヲ促ス為不取敢芝崎ヲ派遣シ且現地ノ情勢ヲ探リ適宜ノ処置ヲ講セシムルコト致シタク又乗込決行上朝鮮側ト連絡ヲ取ル為杉浦ヲ同行セシメタク安東發貴大臣宛往電第九三号ノ通稟請セル次第ナリ

権ノ両問題ヲ併發紛糾スヘキハ予想ニ難カラサル處ニシテ然ル場合政府ニ於テハ形勢如何ニ依リ行懸リ上非常手段ヲ用フルモ目的貫徹ヲ期セラルモノト確信致サルルカ其ノ反面又南北民衆ニ於テモ本件ニ藉リテ排日ニ狂奔シ延テ我對支貿易ニ何等影響ヲ及ホスコトナキヲ保シ難ク憂慮ニ堪ヘス此ノ点特ニ注意ヲ要スルモノアリト信ス右僭越ナカラ本官任務ト別個ノ卑見トシテ申報ス

北京、奉天へ転電セリ

21 昭和2年5月26日 在安東岡田領事より
田中外務大臣宛(電報)

田中副領事の帽児山分館乗込み決行について
の芝崎副領事報告

安東 5月26日前着
本省 5月26日前着

芝崎発本官宛電報第三号左ノ通

往電第二号末段ニ閑シ

田中ノ決意ヲ確メタル處之ヨリ曩ニ同人ハ王增財到着スルヤ否ヤ独斷ニテ直ニ現地ニ赴カシメ支那側ノ注目ヲ避ケン

二 安東領事館帽児山分館設置問題

カ為特ニ一日滯在シ引揚準備ヲ了シタル上二十五日結果ヲ齎ラシメ其模様ニ依リ二十六日乃至七日日中家族ヲ連出サシムル様閑屋ヲシテ取扱ハシメタレハ二十八日迄ニハ遅クモ決行スヘシト請合ヒタルニ付前電警察官ノ乗込ミニ比シ遅ルルノミナルヲ以テ警官ヲ田中ト同行セシムル事ニ変更セルニ付御承知ヲ請フ尚乗込ニ付テハ吉田總領事及貴官力京城ニ出張御配慮ノ結果守備隊ニテハ力瘤ヲ入レ援助シ吳レル事トナリ例年施行ノ演習ヲ本年ハ特ニ当地ニテナス事トシ江界以北ノ守備隊三箇中隊ヲ当地ニ召集シ軍用「プロペラ」船砲二門、及機関銃八挺、飛行機ヲモ参加セシメ示威的演習ヲ行ヒ此機ニ於テ入込ム事ニ相談整ヒ居リタリシヲ田中カ斎藤ヲ貴館ニ出張セシメ打合ゼノ結果ヲ見テ後ニセントノ腹案ヨリ二十日以後ニスヘシト本官ノ到着前ニ於テ守備隊ニ通告セシ為軍隊側ニテハ二十三日開始ノ予定ナリシ行動ヲ總テ中止シタルカ故ニ全ク手違トナリ遽ニ準備ニ着手スルモ到底二十八日ノ乗込ニ間合ハサルヨ(欠)當日ハ當地現在ノ二箇小隊ヲ以テ極テ微温的ノ演習ヲナスニ止メタリ尚現地ニハ目下大ナル危険アリトハ思ハレス二十一日新義州検事正一行入境ノ際ハ隨員三名ノ外當地警察署

員三名加ハリ計七名ニテ行キシニ江岸其他ニテハ誰何セラレス唯知事ニ面会ヲ求メシ時ノミ多數ノ一行中ニ領事館員紛レ込ミニ居ラサルヤトノ疑ニテ面会手間取リシニ過キサリシ由
転電先前電ノ通

22 昭和2年5月29日 在中江鎮田中分館主任より
田中外務大臣宛(電報)

田中副領事帽児山分館着任報告 中江鎮 5月29日後発 本省 5月30日前着 第四号

本官二十九日着任同日事務ヲ開始セリ

23 昭和2年5月30日 在安東岡田領事より
田中外務大臣宛(電報)

中国側官憲により帽児山分館用家屋破壊せられた旨の田中副領事報告 合第一〇号

安東 5月30日後発 本省 5月30日後着

兵トモ渡江江岸ヨリ巡警尾行ノ儘市内ニ進入シタル処斎藤署長今福部長外巡査三名ハ先行のニ兎ニ角家屋ニ入り込ミ知事宛通告文並ニ土地家屋権利証書ヲ交付シ開館ノ形式ヲ執リタルカ一方芝崎杉浦両官並本官等ノ一行ハ県公署ニ至ル途中ニ於テ区官ノ指揮セル武装巡警隊ト出会ハセ前進ヲ阻止セントシタルヲ以テ其不法ヲ詰リタルモ何分知事不在ヲ口実トシテ容易ニ通抜クルヲ得サルノミナラス其時区官ハ身ヲ本官ニ擦寄セ押返サントスル氣勢ニ出テ且其間民衆亦続々集合シ来リ此時本官ハ最後的突破ヲ試ムヘク頑強ニ押問答シタルモ注意スルモノアリムヲ得ス終ニ一步モ進ム能ハス漸ク芝崎副領事外巡査一名ノミ巡警付随ノ下ニ県公署ニ至ル約束ニテ進ミ其他ハ一応閑門迄引返シタルカ結局何レモ押出サレ其際斎藤署長等モ亦僅々一時間ニシテ武力ニ依リ退去ノ余儀無キニ至リタリ右前後ノ状況ニ觀テモヘキ家屋残留者二十八日引払ヒ同日同家屋ヲ本官ニ引渡サレタルヲ以テ予テ芝崎、杉浦両官ト協議ノ結果ニ基キ目的家屋入込ト知事訪問談判トノ二手ニ別レ万ノ場合ニ備フル為メ不越江ノ範囲ニ於ケル守備隊掩護ノ下ニ二十九日午前八時半ヨリ乗込行動ヲ開始シ一行二十名ハ応援警察官憲大臣、北京、奉天へ転電アリ度

北京、奉天へ転電セリ

武力を用いて帽児山分館に乗込む場合の処置
について芝崎副領事の意見具申

北京、奉天へ転電セリ

25 昭和2年5月30日 在安東岡田領事より

田中外務大臣宛(電報)

帽児山分館武力乗込み断行に関する今後の処

置振り芝崎副領事より請訓について

安東 5月30日後発
本省 5月31日前着

第一一三号

芝崎ヨリ

(四文書)

往電第一二〇号ト略同様ノ報告アリ且此上ハ帝国政府ノ威信保持上最早武力乗込断行ノ他ナシト確信スルニ付今後ノ処置振りニ関シ至急回電ヲ待ツ旨來電アリタリ就テハ相当多數ノ外務省警察官ヲ現地ニ派シ万一ノ場合更ニ朝鮮側軍艦及軍隊ノ援助ヲ得ル事トシ普通学校分教場ニ乗込マシムルカ或ハ田中一行ヲ依然中江鎮ニ止メ置キ時機ヲ待タシムルヨリ外致方ナカルヘク何分ノ儀至急御詮議御回電ヲ請フ北京、奉天へ転電セリ

26 昭和2年5月31日 在安東岡田領事より
田中外務大臣宛(電報)

第一一七号

芝崎発本官宛電報第一号左ノ通

安東 5月31日後発
本省 5月31日後着

帽児山市内ハ午前中示威運動行ハレ午後ハ劇場ニテ排日公開演説催サレ本官本日杉浦ト共ニ守備隊長ヲ訪問打合セタル結果武力乗込ニ対シテハ大体往電第三号ノ演習ノ時ト同様一箇中隊ノ兵力ヲ以テ真先キニ要地ヲ占領シ然ル後部隊護衛ノ下ニ領事館員乗込ミテ知事ヲシテ出迎ヲ為サシメ交渉ヲ開始ノ段取リトナセハ乗込容易ナルヘシ但シ此場合先方ノ抵抗セサル限り毫モ銃火ヲ浴セル必要ナシトスルニ一一致セリ長白県ノ出兵問題ノ如キ孰レモ差シタルコトモナク地方的ニ解決セルニ顧ミ今回モ亦奥地ノコトナレハ問題ハサマテ重大化セサルコトト存セラル臨江県知事ハ本官等一行ノ正式訪問ヲ拒絶シ群衆ノ暴行ニ名ヲ借リ実力ヲ以テ一行ヲ放逐シタルノミカ帝国政府ノ所有家屋ヲ破壊スルノ武力ヲ敢テセル以上最早尋常一樣ノ手段ヲ以テハ将来ニ悪例

ヲ残スノミカ我国威ヲ傷ツクルコト大ナルモノアリト存ス就テハ此際前電稟請ノ通断乎タル処置ニ出テラル様至急何分ノ御詮議ヲ請フ

転電先前電通

在支公使、奉天へ転電セリ

27 昭和2年5月31日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛

帽児山分館開設に関する外交部宛第二次通告

について

付屬書 五月三十一日付在中国芳沢公使より在安東岡田

領事宛機密第五号

第二次外交部宛通告覺書写について

機密第五五六号

昭和2年5月31日 (6月6日接受)

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉 (印)

(別紙)

覚書

往電第四号ニ関シ本件第二次外交部宛通告覺書写別紙ノ通送付ス

写送付ノ件

日本帝國公使館ハ昭和2年3月十七日付第一七号書翰ヲ以テ外交部ニ対シ在安東帝国領事館管内帽児山ニ同領事館分

館ヲ開設スヘキ旨通告シタル処、右ニ対シ外交部ヨリ五月
昭和2年五月三十一日付在安東岡田領事宛機密第五号信写
送付

外務大臣男爵 田中 義一殿

昭和2年5月31日付在安東岡田領事宛機密第五号信写

89

十三日付希字第一三六号書翰ヲ以テ帽兒山地方ハ日本在留民尚多カラス分館設置ハ今日未タ其ノ時機ニアラサルモノト認メラルニ付之ニ同意シ難キ旨回答ニ接シ之ヲ閱悉セリ。

然ルニ、帽兒山分館ノ受持ニ属スヘキ撫松、安岡、長白及臨江ノ四県ハ大正十三年乃至十五年ノ調査ニ於テ内地人七十五名鮮人三万八百六十名ノ多キヲ算シ日支両国ノ経済關係密ニ赴キツツアル現状ニ鑑ミ日本帝国政府ハ帽兒山ニ領事館分館ヲ設置スルコトヲ要スルニ至リタルモノニシテ、本件ハ既存ノ領事館ノ配下ニ一分館ヲ設置スルニ過キス。前記日本公使館ノ通告モ單ニ日支両国ノ親交關係ニ顧ミ相互ノ誤解ヲ避ケムカ為念ノ為ナサレタル次第ナリ。依テ、日本帝国公使館ハ同分館ノ館員ヲ現地ニ派遣シ直ニ分館開設ニ必要ナル措置ヲ執ラシムヘキ予定ノ計画ヲ何等変更シ得サルコトヲ茲ニ支那政府ニ通告スルノ光榮ヲ有ス。

昭和二年五月三十日

日本帝国公使館

28 昭和2年6月1日 田中外務大臣より
在奉天吉田總領事宛（電報）

尚當方ニ於テハ支那側ノ出様如何ニヨリテハ安東領事發本大臣宛電報第一一七号ノ手段ヲ考慮スル積ナリ御含迄

本大臣ノ訓令トシテ安東ニ転電シ交渉員ニ交渉セシメラレタシ

北京へ転電アリタシ

（欄外記入）

本電ニ対シ

一、安東ヨリ來電第一二三号ヲ以テ東邊道尹ニ交渉ノ願

末報告アリ

六月三日

二、同様奉天ヨリモ來電第一五五号ヲ以テ中央ヨリ訓令アラハ反対セストノ旨回電アリタリ

六月四日

帽兒山分館開設問題に関する交渉員との往復

奉天交渉員署照会（要領訳文）

29 昭和2年6月3日 在奉天吉田總領事より
田中外務大臣宛

帽兒山分館開設問題に関する交渉員との往復

機密公第三三〇号

昭和二年六月三日

（6月7日接受）

帽兒山分館開設のための自衛手段を取る以前
に奉天側官憲の反省をうながすよう交渉方訓
令

本省 6月1日後発

第七八号

田中副領事發安東宛電報第六七号及第六九号ニ閏シ

（三四文書）
（二三文書）

支那側ハ武力ヲ以テ同副領事一行ヲシテ帽兒山ヲ立退クノ余儀ナカラシメタルノミナラス一行ニ對スル民衆ノ暴挙ニ對シテモ何等取締ヲ行ハス剩へ分館ニ充當スヘキ家屋ヲ破壊スル等非道ノ限リヲ尽シ居レルニ付テハ帝国政府トシテハ自衛上直チニ軍隊ヲ派遣シテ條約上ノ権利ヲ擁護シ得ヘキ所ナルモ東三省官憲トノ平素ノ親交ニ鑑ミ右手段ニ訴フル以前ニ同官憲ニ於テ本件ニ就テハ飽迄現在ノ如キ態度ニ出ツル考ナリヤ又ハ本件彼等ノ態度カ日支國交ニ及ス影響ニ鑑ミ此ノ際翻然從來ノ態度ヲ改メ同分館ノ開設ヲ承認シ一切ノ便宜ヲ供与スルヤ帝国政府ニ於テ自衛手段ヲ執ル以前ニ於テ彼等ニ反省ノ最後ノ機會ヲ与へ出来得ヘクハ平和的ニ本件ヲ解決シ度キニ付テハ貴官ハ右ノ趣旨ニヨリ奉天官憲ニ交渉セラレ結果回電アリタシ

鴨綠江流域上下千五百余里ニシテ臨江ハ枢要地ナリ日本ノ垂涎已ニ久シク支那南北戰爭開始セルニ於テ俄カニ領事ヲ設ケムトス其ノ目的ハ流域ニ於ケル政務ノ權ヲ以テ支那ノ商業發展ヲ排スルモノナリ我方ハ鴨綠江協定ノ如キ不逞鮮人ヲ取締り住民ノ安寧ヲ期シ日本震災ニ付テハ巨額ノ救恤金ヲ以テ親善ヲ因レリ然ルニ日本側ハ前世紀ノ侵略主義ヲ以テ強硬的三分館ヲ開設スルコトハ支那ノ主權ヲ無視スルモノナルニ付囊ニ屢次ノ照会ノ通分館開設ヲ中止セラレ度

云々

(別紙二)

公文第三九三号

昭和二年六月三日

在奉天

總領事 吉田 茂

奉天交涉署長 高 清和殿

拝啓陳者臨江県ニ於ケル領事館分館開設ノ件ニ關シ五月二十六日付外字七七号貴信御照会ノ趣旨悉本件ニ關シテハ既ニ在北京帝国公使館ヨリ貴国外交部ニ對シ貴我両國ノ親交ニ顧ミ相互ノ誤解ヲ除クル為通告ノ次第有之更ニ帝国公使ハ五月三十日付ヲ以テ貴国外交部ニ對シ本件分館開設ノ予定計画ハ変更シ得サル旨^(二七文書)覺書ヲ交付致置候条右様御了知相成度此段回答申進候

敬具

30 昭和2年6月4日 在奉天吉田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

帽兒山分館開設に関する奉天省長および交渉員との交渉結果について

奉天 6月4日前發

31 昭和2年6月7日 田中外務大臣より
在中國芳沢公使宛(電報)
帽兒山分館開設問題につき楊宇霆等中央政府
と懇談方訓令

本省 6月7日後發

第三二〇号

本大臣宛奉天發電報第一五五号ニ關シ貴官ハ本大臣發奉天宛電報^(二八文書)第七八号ノ趣旨ニ依リ今一応中央並ニ要スレハ楊トモ懇談セラレ何分ノ確答ヲ取付ケ結果回電アリタシ奉天、安東ニ転電アリタシ

第三二〇号

32 昭和2年6月9日 在奉天吉田總領事より
田中外務大臣宛(電報)
軍隊応援の下に帽兒山分館乗込み強行すべき
意見具申について

奉天 6月9日後發
本省 6月10日前着

貴電第七八号御來訓ニ基キ早速省長ニ交渉致スヘシ惟フニ省長ノ優柔不斷ナル到底快諾ヲ与フヘキ勇斷ナカルヘク結

本省 6月4日後着

第一五五号
貴電第七八号ニ閱シ

蜂谷省長及交渉員ニ夫々面会後訓令ノ趣旨ニテ交渉ノ処兩

人共本件ハ中央政府ヨリノ命令ヲ待ツヘキモノニテ政府ノ許可命令ナキ限何トモ取計難ク政府訓令サヘアラハ地方民ノ取締乃至便宜供与ノ如キサシテ面倒ナラサルモ分訓令ナキ為目下如何トモ方法ナシト答ヘタルカ交渉員ハ最後ニ現地支那側ノ暴状ハ未タ報告ニ接セサルモ事実トセハ必要促スルハ自分ノ立場ニ顧ミ且從来ノ行懸上困難ナルモ貴見ノ次第私信ニテ内々中央ニ申出テ其意向ヲ確カムヘキニ付テハ在支那公使ヨリモ外交部ニ對シ地方官憲ヘノ訓令方交渉セラレ度サスレハ問題ハ割合簡単ニ片付クヘシト繰返シタリ尚省長ハ実ハ当地ニモ分館設置反対運動ヲナサントスル者アレトモ押ヘ居レリト申添ヘタリ要スルニ兩人共分館設置ニ強テ反対ノ模様ナキモ今日迄ノ行懸モアリ其責任上確答ヲ忌避シ居ル有様ナリ

在支公使、安東ヘ転電セリ

33 昭和2年6月10日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)
帽兒山分館開設問題について楊宇霆との懇談

結果につき報告

北京 6月10日後發
本省 6月10日後着

貴電^(二八文書)第六六八号

貴電^(二八文書)第六六八号ニ閱シ

六月二日楊宇霆ノ來訪ヲ求メ懇談ヲ遂ケタル處楊ハ本件ニ就テハ自分ヨリ既ニ直接莫省長ニ過日書面ヲ發送シ又近々

自分モ一応奉天ニ赴クヘキニ付其節篤ト面談スヘキ旨答ヘタルニ付本使ハ我方ニ於テハ一日モ速ニ解決ヲ急キ居ル次

第ナル旨ヲ力説シタル處楊ハ山間僻地ノ人民ニ事態ヲ諒解セシムルコトモ困難ナルカ実ハ莫省長ハ王永江程ノ基礎ヲ有セサル人ナル為多少躊躇逡巡ノ氣味ノアルコトハ其立場ニ顧ミ無理ナラサル事情アリ此点モ御諒解願度シト申出テタルニ付本使ハ自分ハ莫省長ト熟知ノ間柄ナルカ故自分ヨリ同省長ニ電報スレハ或ハ多少ノ効果アラムカト述ヘタル處楊ハ至極御尤モナリ是非發電ヲ希望スル旨答ヘタリ依テ莫宛本使ヨリ電報スルコトニ致スヘシ

猶貴電ニハ中央並要スレハ楊トモ懇談セラレトアル處中央トハ中央政府ト解釈セラルモ本件ハ中央政府ニ交渉スルモ無論楊トノ交渉程ノ効果モ無之ニ付以上ノ通り取計フコトニ止メ置キタリ

奉天、安東へ転電セリ

34 昭和2年6月10日 在奉天吉田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

35 昭和2年6月11日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

奉天、安東へ転電セリ

暴民を取締り帽児山分館を開設し得るよう該所地方官に電訓方奉天省長に依頼電報せる報告

北京 6月11日後発
本省 6月12日前着

第六七三号

(三文書)

往電第六六八号ニ閑シ

十一日付ニテ奉天省長ニ左ノ通漢文ニテ電報シ置ケリ

安東日本領事館ノ分館ヲ帽児山ニ設置ノ件ニ閑シテハ既ニ在奉天總領事ヨリ貴省長ニ屢次交渉ニ及ヒ置キタル處最近

外務大臣ヨリノ電訓ニ依レハ該分館ノ副領事等カ護照ヲ持チテ赴任シタルニ暴力ヲ以テ阻止セラレ分館ヲ開館スルヲ得ス更ニ武力ヲ以テ退出ヲ強ヒラレ且ツ分館ノ家屋ハ暴民ニ破壊セラレタルニ地方官憲ハ暴民ノ行為ヲ取締ラサルノミナラス又保護ノ責任ヲ負ハス然ルニ該分館副領事ハ既ニ

命ヲ奉シ赴任セル以上断シテ途中ニテ中止スルノ理ナシ今後若シ再ヒ此ノ種事件發生セハ軍隊ヲ派遣シテ保護シ自衛ニ依リ備フルノ外方法ナキ状態ナルハ両邦交上真ニ遺憾ナリトノ趣ナリ思フニ本件ハ地方人民ニ誤解アルモノノ如キニ付宜シク地方官ニ於テ然ルヘク指導シ且取締ヲ要スル

帽児山分館開設に関する莫奉天省長および楊宇霆との交渉はこれ以上無益と思われるの意見具申について

奉天 6月10日後発
本省 6月11日前着

第一六三号

貴電(一八文書)第七八号御訓令ニ基キ本十日省長ヲ往訪シ過日北京ニ

テ楊宇霆ハ本件ニ閑シ貴官ニ書面ヲ以テ委細申送ルヘシト本官ニ約束スル處アリシカ右書面ハ受領セルヤト切出シ未着トノコトニ付北京ニ間合セ呉ル様依頼セルニ省長ハ斯ル職責上ノ儀ニ付当局者ナラサル楊ニ尋ね難シト答ヘタレハ然ラハ省長トシテノ意見如何ト尋ネタルニ賛成トモ不賛成トモ明言シ難シ云々ト應答大要右様ノ次第ニテ此ノ上ノ押問答モ無益ト考ヘ打切りタリ前電(一五〇文書)第一五五号ノ通り不決断ナル莫ヲ相手ニハ到底要領ヲ得ラルヘクモ無之楊宇霆ニシテ今猶何等申越シ居ラストセハ同人へ此ノ上ノ交渉モ結局ハ無益カト思考ス

北京、安東へ転電セリ

奉天、安東へ転電セリ

36 昭和2年6月12日 在奉天吉田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

35 昭和2年6月11日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

奉天、安東へ転電セリ

次第ニ付篤ニ此處ニ貴省長ニ電請シ駐奉總領事ト至急商議セラレ該所地方官ニ対シ暴民ヲ取締リテ開館シ得ラル様電訓方御取計ヒ相成リ度ク尚何分ノ儀回電アランコトヲ請フ

奉天、安東へ転電セリ

36 昭和2年6月12日 在奉天吉田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

35 昭和2年6月11日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

奉天、安東へ転電セリ

打通線、海吉線抗議を帽児山分館問題に結び
付け報復措置を取ること然るべき旨の意見具申

奉天 6月12日後発
本省 6月12日前着

第一六五号

(三文書)

往電第一六二号ニ閑シ

過日京城出張ノ砌總督ニ江岸守備兵ノ支那ニ於ケル行軍ヲ希望セル處斯様ノ小事件ニテ国外出兵ノ名ヲ生シテモ面白カラストテ頗ル迷惑氣ニ見エ本官モ右ハ尤ト存シタルニ付表立タル援助ノミヲ總督ニ依頼シ其後師団側モ懇口ニ援助シ吳レタル趣ナルカ我此際ノ措置トシテハ寧ロ分館問題

二 安東領事館帽兒山分館設置問題

ヲ打通線、海吉線抗議ニ結付ケ近時奉天官憲カ我ニ対スル各種ノ不都合ナル態度ニ就キ反省ノ実ヲ示スハ京奉線ノ我奉天鉄道付屬地通過ヲ差止メ皇姑屯及瀋陽駅トノ直接連絡線路ヲ撤退スヘキ旨本官ヨリ莫省長ヘ口頭申聞ケ場合ニ依リテハ駐屯軍及満鉄ト協議シソノ実行ノ準備ニ取掛ルコトト致度ク年来我対支態度ノ不徹底ナリシ結果奉天官憲側ハ猶テ我ノ恐ルヘキヲ知ラス今ニシテ彼等ノ十分ナル反省ヲ促サスンハ彼等自身ノ利益ニモ非ス近クハ奉海線ノ一駅ヨリ大痘痘（正安ノ別名）ヘノ支線ヲ計画シテ満鉄主要駅タル開原ノ出荷ヲ吸收セントシ満鉄ノ利益ヲ害セストノ北京協定ハ全然無視シ其他洮昂線、四洮線ト満鉄トノ業務ナラスシテ折角出来上リタル右二線ハ満鉄ノ栄養線タル実ヲ生セシメス奉天側ヲシテ此方面業務連絡ヲ促進セシムル上ニモ奉天軍カ北支ノ軍事ニ没頭セル此際京奉線ト奉天城並ニソノ兵工廠トノ連絡ヲ絶タルルノ危険ヲ感知セシムルハソノ覺醒ヲ促スニ労少クシテ効果大ナルヘク依テ以テ彼我関係一新ノ端生スヘク然カモ本官及莫省長間ノ問題トシテ全責任ヲ省長ニ負ハシメ省長就任以来我ニ対スル不法事件発生ノ不都合ノ数々ヲ數ヘ立テ彼ニ責アレハ張作霖若クハ關係ノ新規化ノ途上モ其ノ處決ヲ促サルルコトト致シ度シ

38 昭和2年6月(5)日 在奉天吉田總領事より
田中外務大臣宛（電報）
帽兒山分館問題等に関する莫省長との会談結果報告

奉天 本省 6月15日後着 発

第一六九号

（三七文書）

貴電第八三号御訓令ニ基キ昨十四日莫省長ニ面談先ツ過日北京ニテ張作霖、楊宇霆ニ對シ奉天側ノ近時彼我條約取極ヲ無視セル各種ノ事実ヲ列挙シ殊ニ郭松齡事変以來奉天側ノナス處我予期ニ反シ今ヤ張作霖反対熱ハ益々高調シツアリ東京対支會議ニテ自然張作霖攻撃論モ出ツヘク之ニ対シテ本官モ亦何等弁明材料無キ地位ニ在リ若シ奉天側ニシテ我ニ親善ノ意アレハ特ニ此際其誠意ヲ披瀝スヘシト勧告セルニ張ハ楊ニ相談ノ上楊ヲ以テ芳沢公使若クハ本官ニ何分ノ儀申出ツヘシト言ヒ楊宇霆ハ本官北京出發前時間ナケ

ヲ打通線、海吉線抗議ニ結付ケ近時奉天官憲カ我ニ対スル各種ノ不都合ナル態度ニ就キ反省ノ実ヲ示スハ京奉線ノ我奉天鉄道付屬地通過ヲ差止メ皇姑屯及瀋陽駅トノ直接連絡線路ヲ撤退スヘキ旨本官ヨリ莫省長ヘ口頭申聞ケ場合ニ依リテハ駐屯軍及満鉄ト協議シソノ実行ノ準備ニ取掛ルコトト致度ク年来我対支態度ノ不徹底ナリシ結果奉天官憲側ハ猶テ我ノ恐ルヘキヲ知ラス今ニシテ彼等ノ十分ナル反省ヲ促サスンハ彼等自身ノ利益ニモ非ス近クハ奉海線ノ一駅ヨリ大痘痘（正安ノ別名）ヘノ支線ヲ計画シテ満鉄主要駅タル開原ノ出荷ヲ吸收セントシ満鉄ノ利益ヲ害セストノ北京協定ハ全然無視シ其他洮昂線、四洮線ト満鉄トノ業務ナラスシテ折角出来上リタル右二線ハ満鉄ノ栄養線タル実ヲ生セシメス奉天側ヲシテ此方面業務連絡ヲ促進セシムル上ニモ奉天軍カ北支ノ軍事ニ没頭セル此際京奉線ト奉天城並ニソノ兵工廠トノ連絡ヲ絶タルルノ危険ヲ感知セシムルハソノ覺醒ヲ促スニ労少クシテ効果大ナルヘク依テ以テ彼我関係一新ノ端生スヘク然カモ本官及莫省長間ノ問題トシテ全責任ヲ省長ニ負ハシメ省長就任以来我ニ対スル不法事件発生ノ不都合ノ数々ヲ數ヘ立テ彼ニ責アレハ張作霖若クハ關係ノ新規化ノ途上モ其ノ處決ヲ促サルルコトト致シ度シ

37 昭和2年6月13日 田中外務大臣より

在奉天吉田總領事宛（電報）

第八三号（大至急）
（三六文書）
貴電第一六五号ニ閑シ

貴見一応御尤ナルモ分館問題ハ急速解決ヲ要スル案件ナルニ反シ打通線海吉線等鉄道問題ハ満蒙政策ノ一題目トシテ貴官御帰朝後來ル可キ會議ニ於テ充分研究ヲ必要トスル事項ニ属シ從ツテ此際分館問題ニ結付ケ御來示ノ如キ報復的措置ヲ直チニ実行セラルカ如キハ聊カ面白カラサル嫌アルニ付寧ロ貴官御出發前莫省長ニ対シ支那側ノ我ニ対スル不法事件ヲ列挙シ帰朝後會議ニ於テ之カ匡正方ニ付テモ充

奉天軍閥トシテハ面目ヲ存スル道モアリテ我ニ聽從スルヲ難シトセサルヘク我トシテモ表面鉄道問題ヲ主トシテ分館事件ヲ交渉ノ表面上從トセハ一石二鳥ノ結果アルヘキカ卑見幸ニ御採納ヲ得ハ関東軍司令官及満鉄社長ヘ然ルヘク御示達置ヲ請フ

ざるよう訓令

本省 6月13日後発

二 安東領事館帽兒山分館設置問題

ツルコト妥当ナラスヤ此際ハ戒告ニ止メテ發行停止ヲ解除シテハ如何ト言ヘルモ彼ハ遂ニ明答ヲ与ヘス依テ会談ヲ打ちリタリ
在支公使ヘ転電セリ

39 昭和2年7月1日 田中外務大臣より
在安東岡田領事宛（電報）

帽兒山分館問題に關し吉田總領事帰任後強硬

談判を開始することに決した旨の指示につい

て

付記一 帽兒山分館開設に関する頤末（六月六日記）

二 帽兒山分館問題に關する会合について（六月二十日記）

三 帽兒山分館開館に關する高裁案（六月二十八日起草）

本省 7月1日後発

第七二号

帽兒山分館ニ関シ

吉田總領事帰任ノ上莫省長ニ強硬談判ヲ行フコトニ決シソレ迄ノ準備行為トシテ我方ノ強硬態度ヲ示シ奉天ニ於ケル交渉ヲ容易ナラシムル為右交渉成立迄ヲ見越シ差當リ本省

兼務關東府巡查十名（武装）ヲ約一ヶ月ノ予定ヲ以テ貴地ヨリ中江鎮ニ派遣シ田中副領事ノ指揮下ニ入ラシムルコト及之ニ要スル費用ハ本省負担タルコトニ付關東長官ニ電照セリ（本件既ニ兒玉長官ト内議済）右費用ハ便宜貴官ニ前渡スヘキニ付關東府側ト打合セ概算電請アリタシ尚同時ニ朝鮮側ニ對シテハ相當人員ヲ中江鎮警察署ニ右ノ期間臨時増員方電照シ一面守備隊側ニ於テハ同期間演習其他示威的行動ヲ取ルコトニ陸軍省當局ト打合濟北京、奉天及田中へ転電アリタシ

（付記一）

帽兒山分館開設ニ關スル頤末

（昭和2年6月6日記）

在安東帝國領事館管内帽兒山三分館開設方ニ關シ斎藤朝鮮総督ヨリ本省ニ依頼（大正十三年七月ノ交）アリ本省ニ於テモ之カ必要ヲ認メ大正十五年度予算ヲ以テ開設ノコトニ取運ヒタル處同地ハ南滿州ニ屬シ條約上邦人ノ居住ヲ認メラレ從テ當然我公館ヲ設立シ得ヘキ筋合ナルモ支那側近時ノ態度ニ鑑ミ或ハ強行手段ヲ要スルコトアルヘキヲ予想シ

開館ニ先チ在安東領事ヲシテ極秘裡三分館充当ノ土地家屋ヲ買収セシメ（買収ニ不尠手間取り大正十五年十一月十七日調印）不敢右土地家屋ノ保管方法トシテ間島ヨリ警察官四名ヲ派遣（昭和二年三月一日中江鎮着）シ一方朝鮮總督府ニ対シ応援方ヲ依頼シタリ而シテ同分館主任ニ在璣春田中副領事ヲ任命（一月七日付任命四月十六日中江鎮着）

シ一面在支芳沢公使ニ対シ該分館開設ノ件ヲ北京政府ニ正式通牒（三月十七日付）ヲ發セシメ同時ニ奉天及安東ニ於テモ支那當局ニ対シ同様ノ申込ヲ為サシメ且ツ誤解ナキ様説明セシメタルニ何レモ不同意ナル旨回答シ來レリ

先是現地ニ在リテハ支那側ハ極力我分館ノ開設ニ反対シ居ル旨ノ情報アリタルヲ以テ田中副領事一行ハ暫ク中江鎮ニ滞在シテ形勢ヲ探リ尚ホ之カ応援ノ為安東及奉天ヨリ芝崎副領事及杉浦属ヲ派シ一方万一ノ場合示威的演習実施方予メ同地我守備隊ト打合せキ昭和二年五月二十九日帽兒山乗込ヲ決行シタルニ支那官民ノ武力的妨害（此時分館用家屋ハ破壊セラル）ニ逢ヒ一行ハ已ムナク中江鎮ニ引返シ其ノ再挙ニ關シ前記軍隊ヲ以テ越境援護ノコトニ守備隊側ト協議纏マリタル趣ニテ右断行方ヲ本省ニ請訓シ來レリ（五月

（付記一）

昭和2年6月20日記

帽兒山分館問題ニ關シ会合ノ件

昭和二年六月二十日帰朝中ノ芳沢公使、吉田總領事ノ來省ヲ求メ木村亞細亞局長室ニ会合之ニ中山亞一、三浦亞二両課長及相場翻訳官出席先ツ今日マテノ經緯ニ付相場ヨリ説明シタル後出先ニ於ケル情況ニ關シ芳沢吉田両氏ヨリ報告アリ木村局長亦本省ノ意ノアル所ヲ説明シタル上今後ノ措置ニ關シ各員意見ノ交換アリ偶々浅利朝鮮警務局長來訪ニ付之ヲ本会合ニ加へ結局左ノ如ク纏マリタリ

一、武力開館ハ時機ニアラスト認ム

二、吉田總領事帰任ノ上他ノ懸案ノ中ニ引ツクルメ莫省長

ヲシテ開館ヲ応諾セシムルコトニ努力スヘシ

三、依テソレマテノ間中江鎮滯在ノ田中副領事一行ハ暫ク

其ノ儘滞留セシメ飽クマテ開館遂行ノ勢ヲ示シ

四、一面主トシテ朝鮮側ノ警察官ヲ臨時此方面ニ集中シテ

我方ノ氣勢ヲ揚ケ

五、之ヲ以テ奉天ニ於ケル吉田總領事ノ莫省長押付ケノ一

助ニ資スルコト

(付記三)

(昭和二年六月二十八日起草)

帽児山分館開館ニ閑スル件

帽児山分館開館方ニ閑スル善後策トシテ左記ニ依リ措置致度

記

一、吉田總領事帰奉ノ上莫省長ヲ圧迫シ他ノ諸懸案ト一括シテ帽児山分館ノ開館ヲ応諾セシムルコト

二、之カ為我方ハ飽迄開館遂行ノ強硬態度ヲ示スノ要アルヲ以テ吉田總領事ノ帰任ニ先チ

(1)関東庁ノ内諾ヲ得タル同庁警察官十名ヲ外務省兼官ノ

名ニ於テ安東ヨリ堂々ト対岸中江鎮ニ派シ置キ我方ノ氣勢ヲ示スコト(経費本省負担)
(2)既ニ関東庁ヨリノ応援ヲ得ルコトニ内定シタルヲ以テ朝鮮側ニ於テモ之ニ合力援助ノ為中江鎮警察署ニ臨時増員ヲ為スコト同府ニ懲憲スルコト
(3)以上ノ場合必要ニ応シ朝鮮側軍隊ニ於テモ示威の行動ヲトル様子陸軍省當局ニ打合セ置クコト

40 昭和2年7月1日 田中外務大臣より

宇垣(一成) 朝鮮総督宛(電報)
帽児山分館開設応援のため中江鎮に警察官増派について

本省 7月1日後発

第二〇号

帽児山分館開館ニ閑シ御承知ノ通り支那側ハ民衆ヲ煽動シテ極力妨害ヲ試ミツツアルニ對シ帝国トシテハ面目上将又将来ノ対策上是非共開館遂行ノ必要アル處今回關係出先者帰朝ヲ機トシ種々講究ノ結果直チニ武力ニ訴フルコトハ時局柄考慮ヲ要スルモノアルヲ以テ無理ニモ支那側ヲシテ開館ヲ応諾セシムル手段ヲ講スルコトニ決定シ今後ノ措置ニ

関シテハ吉田總領事帰奉ノ上夫々処理スヘキ處之カ交渉ヲ容易ナラシムル素地ヲ予メ作リ置クノ見地ヨリ我方ハ飽迄開館遂行上強硬手段ニモ出テ兼間敷氣配ヲ示ス為奉天ニ於ケル交渉成立迄ヲ見越シ差当リ関東庁ノ武装巡查十名ヲ約一ヶ月ノ予定ヲ以テ安東ヨリ中江鎮ニ派遣スルコトト相成ヘキニ付此際貴府ニ於テモ中江鎮警察署ニ相当人員ヲ右ノ期間臨時増員方御配慮相成様致度尚守備隊側ニ於テモ此期間隨時演習等示威的行動ヲ取ルコトニ陸軍省當局トモ打合済ニ有之右何分ノ儀至急御回示相煩度シ
在京總督へ写送付済

41 昭和2年7月1日 田中外務大臣より

児玉(秀雄) 関東長官宛(電報)

帽児山分館開設応援のため中江鎮に武装警察

官派遣について

本省 7月1日後発

第一二号

帽児山分館開館ニ閑シ支那側ハ民衆ヲ煽動シテ極力妨害ヲ

試ミツツアルニ對シ帝国トシテハ面目上將又将来ノ対策上是非共開館遂行ノ必要アル處直ニ武力ニ訴フルコトハ時局

在京長官へ写送付済

42 昭和2年7月1日 在中国堀(義貴) 臨時代理公使より

田中外務大臣宛
帽児山分館開設方に關する我方第二次通告文

に対する中国側の回答について

(7月11日接受)

機密第六六四号

昭和二年七月一日

在支那

臨時代理公使 堀 義貴(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

帽子山分館開設方ニ関スル我方第二次
通牒ニ対シ支那側回答ノ件

往電第七四一号ニ關シ本件支那側來翰写別紙ノ通送付ス

本信写送付先 奉天、安東

(別 紙)

照会希字第二五号

外交總長王

照会事、案査帽児山、開設領事館分館一案、接准上月三十

来照、業已閱悉、惟未經本国政府覆允以前、若遽從事運

料、起建領館房舍、實足引起當地民衆之反感、設或因此滋
生事端、與貴我兩國親交本旨、恐有影響、其責任頗為重

大、似不如暫緩分設、較為妥洽相應照会

為

照会希字第二五号

外交總長王

照会事、案査帽児山、開設領事館分館一案、接准上月三十

来照、業已閱悉、惟未經本国政府覆允以前、若遽從事運

料、起建領館房舍、實足引起當地民衆之反感、設或因此滋

生事端、與貴我兩國親交本旨、恐有影響、其責任頗為重

大、似不如暫緩分設、較為妥洽相應照会

為

吉田總領事ヨリ朝鮮軍司令官へ左ノ通リ御伝達ヲ乞フ

(欄外記入) 帽児山分館設置ノ件ニ關シ過般新義州通過ノ砌御話ノ次第

モアリ上京後篤ト各方面ト打合ノ結果東方會議終了次第支

那政府三対シ相當外交的強要手段ヲ講スルコトニ決シ右手

シテ帝國政府ノ決意ヲ深ク看取セシメ置ク必要ヲ認メ示威

的ノ措置トシテ不取敢闇東庁ヨリ警察官十名總督府ヨリ相

當數ノ警察官中江鎮へ増遣ヲ求ムルト共ニ當該地方駐屯部

隊ニ於テモ中江鎮ニ小部隊増遣ノ上時々演習実施等示威的

動作ヲ施行スル様要望セラルル處右相叶フヘキヤ何分ノ御

内意承知致度右ニ付御内諾ヲ得ルニ於テハ增遣隊員數、派

遣期日等改メテ申出ツヘク全ク示威的ニ過キサレハ小部隊

ニテ宜敷期間ハ多クモ一、二週間ニテ可ナリト存ス

(欄外記入)

七月四日發電ト同時ニ木村局長ヨリ陸軍省軍務局
長へ本写送付スミ

貴代理公使、查照、轉達

貴國政府、予以諒解、為盼、須至照会者、

右照会

大日本國欽命臨時代理駐華全權公使堀

中華民國十六年六月三十日

(右訳文)

照会スル為ノコト

照会希字第二五号

照会スル為ノコト

帽児山ニ領事館分館ヲ開設スルノ件ニ關シ客月三十日付貴

信ヲ以テ御來照ノ趣挙承本件未タ本国政府ノ承認ヲ經サル

ニ先タチ今遽ニ事ヲ進捗セシメ同館房舍ノ建築等ニ着手ス

ルニ於テハ當該地方民衆ノ反感ヲ引起スコト當然ナルヘク

之カ為事端ヲ滋クシ貴我兩國親交ノ本旨ニ影響スルカ如キ

コトアラハ其責任頗ル重大ナルニ付右分館設置ハ暫ク之ヲ

見合ス方妥当ナリト存ス右貴國政府ニ御轉達ノ上御諒解相

成様致度右照会得貴意候

敬具

43 昭和2年7月4日

田中外務大臣より
宇垣朝鮮総督宛(電報)

帽児山地方官憲に対する示威的措置として吉

44 昭和2年7月6日 在中國堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛

帽児山分館開設に関する中国側第二次回答に

対し更に申入たる覚書について

(7月14日接受)

機密第六七九号

昭和二年七月六日

在支那

外務大臣男爵 田中 義一殿

臨時代理公使 堀 義貴(印)

帽児山分館開設ニ關スル支那側第二回回

答ニ対シ更ニ申入ノ件

帽児山分館開設ノ件ニ關シ支那側ヨリ第二回回答差越ノ次

第八往電第七四一号及本月一日付機密第六六四号ヲ以テ及

報告置キタル處右ニ対シ今般更ニ別紙写ノ通外交部ニ申入

レ置キタルニ付御了承相成度

本信写送付先 奉天、安東

(別 紙)

覺 書

(四文書)
外交總長ハ昭和二年六月三十日付希字第一五号書翰ヲ以テ

日本代理公使ニ対シ帽児山ニ領事館分館開設ノ件ハ當分ノ

間之ヲ延期スルノ妥当ナルニ如カサルモノト認メラルニ

付右日本政府ニ伝達ノ上諒解ヲ与ヘラルル様取計アリ度旨

申越アリ、日本公使館ハ之ヲ閱悉セリ。然ルニ、日本公使

館ハ本件ニ関シ已ニ再応外交部ニ申入レ済ニテ事態極メテ

ニ関シ支那當局ニ於テ即時適切ナル措置ヲ執ラレムコトヲ

明瞭ニ付、萬一地方民衆ニ於テ誤解ノ点アラハ之カ是正方

要望スルト同時ニ、日本政府ノ本件予定計画ハ変更シ得サ

ルコトヲ茲ニ重テ声明ス。

昭和二年七月六日

日本帝国公使館

45 昭和2年7月8日 田中外務大臣より
在安東岡田領事宛(電報)

警察官の中江鎮派遣につき関東厅及び朝鮮總

督府の同意を得た旨の報告について

別電 同日付田中外務大臣より在安東岡田領事宛第七

七号

警察官中江鎮派遣について

本省 7月8日後発

第七七号
関東厅長官宛第一三号
貴電第一五号ニ関シ

吉田總領事ハ近ク帰奉ノ見込ニ付貴厅巡查十名ハ出来得ル
限リ速カニ出發方御取計アリタク人繩其他必要ノ事項ハ安
東領事ト可然御打合ヲ乞フ

46 昭和2年7月16日 林(仙之)朝鮮軍參謀長より
畠(英太郎)陸軍次官宛

帽児山分館設置に関する小部隊派遣につき意

見具申

朝參密第八〇号

昭和二年七月十六日 (7月21日外務省接受)

陸軍次官 畑 英太郎殿
帽児山領事分館設置ニ關スル件通牒

朝鮮軍參謀長 林 仙之

陸軍次官 畑 英太郎殿

安東領事館帽児山分館設置問題
(欄外記入)
陸二二二二陸軍次官ノ電報ニ依リ小部隊ヲ中江鎮ニ増加シ示威行動実施ニ關スル打合セノ為吉田總領事ニ対シ帰奉ノ途次當部ニ立寄ルヘキヲ要求セシモ同總領事ハ大連経由ニテ

第七六号

往電第72号ニ関シ

(三九文書)
関東厅及總督府ヨリハ本省ノ要求ニ応スヘキ旨回電アリ関

東厅ニハ別電第七七号ノ通り電照シ置キタルニ付応援巡査

ノ人繩及其他必要事項同序ト可然御打合アリタシ

又吉田總領事ハ近ク帰任ノ途中貴地通過ニ際シ開館ニ関ス

ル当方ノ意向ヲ親シク田中ニ伝達ノ筈ニ付同官ヘ貴地迄出

張方直チニ手配シ尚ホ田中ヨリ其ノ留守中ノ心得トシテ齊

藤警部ニ対シ今回ノ計画タル関東厅巡査派遣、中江鎮警察

増員及守備隊ノ示威行動ハ孰レモ我方ノ強硬ナル氣勢ヲ示

シテ奉天ニ於ケル交渉ニ有利ナラシメムトスル計画ニ外ナ

ラサル次第ヲ篤ト訓示セシメラレタシ

北京、奉天、及田中へ転電アリタシ

(欄外記入二)
(欄外記入一)

七月九日安東來電第一四〇号ヲ以テ前段田中ハ

十三日發十四日着安ノ旨回電アリタリ

(欄外記入二)
七月十二日往電第七九号ヲ以テ吉田旅程変更ノ

件通知ス

(別電)

故ニ談判ノ結果確カニ彼ヲシテ分館設置ヲ承諾セシメ奉天

105

二 安東領事館帽兒山分館設置問題

省長ヲシテ臨江県知事ニ対シ分館設置ヲ許可スヘキ命令ヲ
発セシメ然ル後田中副領事以下分館員ヲ帽兒山ニ進入セシ
ムルヲ可トス

奉天ニ於ケル吉田總領事ノ交渉ハ不調ニ終ルノ虞ナキニア
ラス若シ不幸ニシテ支那側ニ於テ之ヲ拒絶シ又ハ曖昧ナル
回答ヲ為スニ於テハ帝国政府ハ武力ニ訴ヘテモ之ヲ遂行セ
ントスルノ意ナルヤ此ノ点ハ帝国将来ノ為メ重大ナル關係
ヲ有スルヲ以テ特ニ予メ承知シ度

又今後ニ於ケル情況ノ推移ニ於テ田中副領事以下分館員カ
帽兒山ニ進入シ分館設置ヲ企画スルニ方リ支那官民ノ反対
激烈ニシテ万一小尼港事件ノ如キ不祥事ヲ惹起セントスル
ニ於テハ中江鎮付近ニ在ル守備隊ハ斷然越境シ武力ヲ以テ
之ヲ救援セサルヘカラサルニ至ルヘシ

尚此ノ如キ場合ニ於テハ相當有力ナル兵力ヲ使用スルノ必
要ナルコトヲ予メ御承知相成度右軍司令官ノ意図ヲ体シ通
牒ス

(欄外記入) 本電ニ対シ七月二十七日陸軍次官ヨリ「効果ノ有
無ハ別トシ此際決行方」回電アリタリ

第八三六号
北京 7月25日後發
本省 7月25日後着

シ置キタリ
奉天へ転電シ奉天ヨリ安東へ転電セシム

二十五日王總長ノ命ニ依リ沈外交部秘書來訪帽兒山分館設
置ニ關シ地方ノ人心激昂シ居ルニ拘ラス日本側ハ之ヲ押切
リ開館セムトシ形勢不穏ナル旨ノ報道アリ總長モ心配ノ様
子ニテ今少シ形勢緩和スル迄開館ヲ見合ハセラレタキ希望

ヲ直接貴國政府宛伝達ヲ請フト述ヘタルニ付本官ハ本件ハ
既ニ數ヶ月ニ亘リ初メ王總長楊宇霆共ニ簡單ニ請合ヒ唯手
続上ノ問題トシテ奉天ニ照会シタルヤニ見セ懸ケ愈々開館
トナルヤ地方官憲力民衆ヲ尻押シテ妨害ノ未終ニ我領事館
員ヲ追出スノ暴挙ニ出テタリ吉田總領事ハ本件解決ニ関シ
今般政府ト諒解ヲ遂ケ帰任シタルカ政府ニ於テハ本件ヲ以
テ數多キ滿蒙ニ於ケル日支縣案解決ノ試金石ト看做シ飽迄
支那側ノ悔悛ヲ促ス意向ナルカ如キヲ以テ開館見合ニ関ス
ル支那側ノ希望ハ其切ナルニ顧ミ一応政府ニ取次クヘキモ
其實徵至難ナルヘシ支那側ニ於テ事端ノ紛糾ヲ避ケムトセ
ハ断然開館ヲ承認スルニ如カス民心險惡ヲ云為スルモ要ハ
政府ノ腹一ツナリト述ヘ本件ニ關スル我方決心ノ程ヲ開陳

47 昭和2年7月22日 在奉天吉田總領事より
帽兒山分館開設交渉開始に当り軍隊の示威行
動実施開始方朝鮮軍司令官に要請について

奉天 7月22日後發
本省 7月22日後着

第一九八号

朝鮮軍司令官宛電報左ノ通り

帽兒山分館ノ件ニ關シ愈々其筋ヨリ訓令ニ接シタルニ付明
二十三日ヨリ支那側ヘ交渉開始スル手筈ナリ田中副領事ハ
当地ニ呼ヒ寄セ一応篤ト申聞カセ置キタルカ安東二十二日
發便船ニテ帰任セシムル予定ナリ又中江鎮ヘ警察官增員ニ
依リ支那側ハ既ニ稍々動搖ノ色ヲ生シ目下安東領事ニ対シ
頻リニ諒解ヲ求メ來リツツアリ時期漸ク熟シ來レルヲ以テ
軍隊側ノ行動開始方御發令ヲ請フ

大臣、北京、安東へ転電セリ

48 昭和2年7月25日 在中國堀臨時代代理公使より
帽兒山分館設置問題に関する沈外交部秘書と
の会見について

(欄外記入)

本電ニ対シ七月二十七日陸軍次官ヨリ「効果ノ有
無ハ別トシ此際決行方」回電アリタリ

牒ス

49 昭和2年7月27日 煙陸軍次官より
林朝鮮軍參謀長宛 (電報)

帽兒山領事分館設置援助に關する小部隊派遣

は効果の有無は別問題として決行方指示につ
いて

帽兒山分館ノ件ニ關シ北京及奉天ニ於テハ強硬ナル外交談
判ヲ開始シ帽兒山付近支那側ハ動搖ヲ始メタル趣ニテ外務
當局ハ今ヤ本件決行ノ好機ナリトシ切ニ軍隊ノ行動開始ヲ
懇望シアリ就テハ朝參密(四六文書)第八〇号通牒ノ御意見一応尤モノ
次第ナルモ既ニ諒解ヲ與ヘタル關係モアリ効果ノ有無ハ別
問題トシテ此際第二二二号電ノ如ク小部隊ノ移動乃至示威
運動決行方配慮アリ度命ニ依リ

(欄外記入) 昭和2年七月二十七日發電同日喜多少佐持參

50 昭和2年7月30日 在中國堀臨時代代理公使より
田中外務大臣宛 (電報)

帽兒山分館開設に關する王外交總長との会見
について

北京 7月30日後発
本省 7月30日後着

北京 7月30日後発
本省 7月30日後着

108

ヲ以テ本官ハ満蒙諸懸案ノ解決ニ對シ東三省官憲カ誠意ヲ示ス處ナキニ依リ日本政府ニ於テ先ツ本件ヲ貫徹セント決意スルニ至レルモノニシテ右方針変更ハ思モヨラス尚交換条件ニ闇シテハ具体的ニ問題ノ性質ヲ知ル迄ハ考慮ノ余地

印度化セントストノ評判日支新聞記事ヲ通シテ支那人間ニナシト述ヘタルカ總長ハ尙余談トシテ田中内閣カ満蒙ヲ東宣伝セルヲ説キ右ハ何レ根拠ナキコトナラムモ最近俄ニ支關係ニ對スル輿論カ悪化シ來レルハ事実ニシテ如何ニ支那ノ輿論無力ナリトスルモ斯ル空氣ノ下ニ仮令條約上ノ権利ニ基クモノト雖諸懸案ヲ解決セントスルハ徒勞ニ属スヘシトノ意ヲ述ヘタリ

尚二十九日夜半本庄中將ハ張作霖ニ招カレ分館問題ヲ論責セラレ日本ノ態度斯ノ如クハ直隸東三省一帯ニ排日ノ起ルコトアルモ自分ノ責任ニ非ストノ常套語ヲ繰返シタル由ナリ最近出兵問題及軍警騒擾事件並ニ一般満蒙問題ヲ材料トシテ從来平靜ナリシ北支ノ輿論カ漸次陥惡ニ向ハントシツアル傾向著シキモノアルハ御考慮ニ入レ置カレタシ奉天、安東へ転電セリ

奉天側ノ形勢比較的有利ナル今日滿州問題ノ解決ニ直進スルハ其ノ時機ナリヤ疑ナキニ非サルモソハ兎ニ角滿州ニ閼スル懸案解決ノ大問題ヲ控フル今日元々小問題ニシテ且我方ニ於テモ相當手ヌカリナキニ非サル帽兒山分館問題ニ関シ大ナル波瀾ヲ起スハ徒ラニ支那側ノ乗スル処トナルハ勿論外國人ノ我方ニ對スル誤解ヲ生セシムル事トナリ却テ大事解決ニ支障ヲ生セシムルノ惧ナキニ非サルニ付分館問題ハ暫ク寢セ置キ時機ノ到来ヲ待ツモ遲シトセサルヘシト思考ス御一考アリタシ

大臣へ転電セリ

51 昭和2年8月2日

在中國堀臨時代理公使より

田中外務大臣宛(電報)

帽兒山分館問題の解決交渉を暫く保留すべき

旨意見具申

付記 七月三十日付在北京本庄(繁)公使館付武官よ

り南(次郎)參謀次長宛電報支第五四〇号

帽兒山分館設置問題に関する張作霖との会見および对中国強制手段実施を差し控えるべき旨の意見具申

北京 8月2日後発
本省 8月2日後着

第八六〇号(極秘)

奉天發大臣宛電報第六〇号

張作霖始メ奉天側主脳部ニ於テ日本ノ態度ニ對シ兎角不満

ヲ懷キ居リ何カニ付ケテ逆ニ日本側ノ措置ノ了解シ難キヲ

我方ノ立場モ其ノ一例ナリトシ若シ日本カ江岸一帯ヲ占領スル意ナラハ兎ニ角一分館問題ニ付対岸ニ兵ヲ動カスカ如キハ了解ニ苦ム旨ヲ本庄武官ニ洩シ居レリ他方本問題ハ漸

(付記)

7月30日後着
7月31日後着

支第五四〇号

(8月1日外務省写接受)

昨二十九日夜張作霖ハ小官ニ來訪ヲ求メ日本ハ今回威力ヲ以テ臨江県ニ領事館ノ如キ使館ヲ設置スル為メ多數ノ軍隊

ヲ対岸ニ準備シタリ之カ為万余ノ群衆支那領ニ集合シ日本人若シ敢テ領事館ヲ設クレハ家屋ヲ破壊焼却スヘシト敦園キ形勢險惡ナリ予ハ莫奉天省長ニ對シ不敢詳細事情ヲ報告スヘシト命シ同時ニ東三省ニモ共產黨員等不逞ノ徒尠ナカラス入り込ミ事ヲ構ヘテ日支ノ離間ヲ策スル形跡アルヲ以テ宜シク穩健ヲ旨トシ彼等ノ術中ニ陥ル勿レト電訓シ置キタリ

惟フニ最近兎角日本ハ心安立ノ結果カハ知ラネトモ南方ニ對シ諸事遠慮勝ナルニ拘ラス北方ニ對シテハ動モスレハ高圧ニ出テ近ク山東派遣軍司令官カ南方使節ヲ山東ニ招致セラレタルカ如キ北方ヲ馬鹿ニシタル事実アリ今又臨江県領事館強行設置ノ騒擾アリ北方人中漸ク是等ニ憤慨シ排日ヲ主張スルモノサヘ生スルニ至レリ予ハ予ノ最モ信賴スル田中内閣成立間モナク斯カル事態ノ發生シ遂ニ重大化スルカ如キコトアラハ誠ニ遺憾ニ堪ヘス仍テ日本側ニ於テモ諸事穩便ニ取計ハレンコトヲ切望スル旨田中首相ニ伝ヘラレタシト懇請セリ

之ニ對シ小官ハ南方使節ノ山東ニ向ヒシ如キハ何等我政府及軍部當局ノ関知スル處ニアラス單ニ出先ノ者カ個人トシ

最初ヨリ泥合戦トナリシモノナリ
此種高圧手段ハ偏狭ナル北方人ニハ二十一ヶ条ノ再来ヲ思ハシメ代価ノ如キハ面目上遂ニ耳ヲ傾ケス却而人心ヲ煽動險惡ナラシムルナキヲ保セス外交手段ノ如キハ元ヨリ小官等ノ容喙スヘキモノニアラサルモ現ニ解決中ニアル諸件ノ頓挫ハ勿論支那ノ共產派ニ対シ反共產各派ヲ支持シ穩健ナル政策ニ向ハシメントスル根本政策ヲモ破壞スルニ至ルナキヤヲ恐ル委細ハ荒木中將林少将ヨリ申上ク

在安東岡田領事より
田中外務大臣宛(電報)

臨江県知事は帽児山分館問題に関し日本側の
実力進出の形勢ありと認めている旨の田中副

領事の報告

52 昭和2年8月2日

安東 8月2日後発
本省 8月3日前着

第一五号

本官發在奉天總領事宛電報

田中副領事發本官宛電報第一〇二号左ノ通り奉天へ転電ア

テ彼等ヲ利用セント試ミタルニ過キサルヘシ此種問題ヲ云為セラルハ多クハ北方當局ノ誤解ニ依ル臨江県領事分館問題ノ如キハ全ク外交官方面ノコトニシテ小官之ヲ詳ニセス唯嘗テ該分館設置ニ就テ奉天高級幹部ヨリ大体ノ諒解ヲ得タル旨耳ニシタルコトアリ兎ニ角代理公使ニ聞合スヘシト答ヘ置キタリ

次長電第一二〇号東方會議ニ於テ決セラレタリト云フ滿蒙懸案解決ニ關スル代理公使着電ヲ見ルニ殆ト鐵道政策ニ限定セラレ而モ其多クハ既ニ張作霖カ直接間接ニ贊意ヲ表セルモノニシテ加フルニ是カ代償シテ支那側ニ与ヘントスル打虎山線及吉海線ノ承認殊ニ海州ニ於ケルニ分五厘付加稅ノ默認ハ頗ル有利ノモノニシテ更ニ相當手數料ヲモ吝マサランツスルモノナル以上必シモ強行手段ヲ試ムルニ及ハス多少時日ヲ借セハ恐ラク話合ヒニテ解決スヘキヤニ推測セラレ強行手段ハ最後ノモノナルヘシ然ルニ吉田奉天總領事ヨリ當地代理公使宛來電ニ依レハ懸案解決方便トシテ先ツ高圧的ニ出テ相手ヲシテ帝国ノ決意ノ尋当ナラサルモノアルヲ覺ラシメ然ル後漸次懷柔手段ヲ試ミントスルモノノ如シ前記臨江県領事分館問題ハ先ツ之カ手始ニシテ而モ

リタシ安東領事宛貴電第九九号ニ閔シ知事ハ最近ニモ奉天ヨリノ分館反対訓電ニ接シ地方的解決上何等權限ヲ付与サレ居ラス(客月二十七日付該電報ハ憲兵分遣所長ニ於テ実見セリ)唯最近我方ニ於テ實力進出ノ形勢アリト認メタルヨリ本官ト個人的ニ會見シ兎モ角双方上司ノ解決ヲ俟チタキ希望ヲ以テ多少トモ當方ノ氣勢ヲ殺カムトスル手段ニ他ナラサルコト見へ透キ居リ却テ貴地ニ於ケル御交渉ヲ妨クル虞アリト認メ撥付ケ置キタル次第ニシテ其他毫モ誠意ノ認ムヘキモノナク而モ過般本官ヨリノ會見申込ヲ拒絶シ置キ乍ラ今更右ノ如キ程度ノ會見ニ當方ヨリ出向クコトハ足許ヲ見透カサレ不得策ト信ス就テハ今後若シ知事自ラ当地ニ出向キ會見ヲ求ム際ハ適當ニ應酬スルコトト致シタシ大臣ヘ転電セリ

53 昭和2年8月4日 在中國堀臨時代理公使宛(電報)
田中外務大臣より

帽児山分館問題の解決を延期する意見に同意
し難い旨回訓

本省 8月4日後発

第三六七号(極秘)

二 安東領事館帽兒山分館設置問題

貴電第八六〇号ニ関シ
(五文書)

帽兒山問題ハ夫レ自体小問題ニハ相違ナキモ本件ハ奉天發

本大臣宛電第一九九号及第二〇二号ノ通り奉天ニ於テハ満

蒙諸懸案解決ノ第一歩トシテ之カ解決ニ力ヲ入レ居ル次第

ニシテ御承知ノ通り初メ王総長、楊宇霆等至極簡單ニ請合

ヒタル事実モアリ本件難渋ノ責任ノ大部分ハ寧ロ先方ニア

ル次ニシテ既ニ奉天ニ於テ強硬談判ヲ開始シタル今日今

更本問題ヲ有邪無邪ニ葬ルカ如キハ延テ本大臣發奉天宛電

第九〇号及第九一号ノ方針実施ヲ頓挫セシムルノ虞アリ俄

ニ貴見ニ同意シ難ク此際貴官ハ奉天ノ交渉ヲ有利ニ導ク為

其ノ第一步タル本問題ニ付テモ往電第三五四号ニ準シ常ニ

側面ヨリ支持スルコトニ此上トモ努力セラレタク尚ホ本庄

其ノ他張ノ昵親者ニ対シテモ本件事情ヲ説明シテ張、楊等

ヲ側面ヨリ説カシムルノ方法ヲ採ラル様致度

奉天ヘ転電アリタシ

54 昭和2年8月4日 田中外務大臣より

在奉天吉田總領事宛(電報)

帽兒山分館問題に関し機会ある毎に地方的に

相手官憲との接觸を計るべき旨の訓令

55 昭和2年8月4日 在奉天吉田總領事より

報告アリタリ

帽兒山分館問題交渉不調の場合の明示手段に

関する朝鮮軍司令官よりの問合せについて

別電 八月四日付在奉天吉田總領事より田中外務大臣

宛第二二二号

第九五号
安東發貴官宛第一〇六号ニ關シ

本省 8月4日後発

(欄外記入)
貴官ニ於テ御異存ナクハ左ノ意味ヲ本大臣ノ訓令トシテ貴

官ヨリ田中ヘ伝達方取計ハレタシ

分館問題ニ對スル強硬態度ハ奉天ニ於テ充分發揮シ既ニ軍

及警察ニ於テモ貴地ニテ示威ヲ為シ居ルニ付貴官ハ素知ラ

ヌ顔ニテ機會アル毎ニ成ル可ク地方的ニ相手官憲トノ接觸

ヲ計リ先方ニ妥協ノ機會ヲ与ヘ且解決後ニ於ケル相互ノ円

満ニ資スル下地ヲ作ルコトニ考慮ヲ加ヘラレタシ

北京ヘ転電アリタシ

(欄外記入)
八月六日奉天發本省宛(五六文書)第二二七号ヲ以テ田中ヘ伝達スミナル旨

報告アリタリ

56 昭和2年8月8日 在奉天吉田總領事より

田中外務大臣宛(電報)

帽兒山分館問題交渉不調の場合の明示手段に

関する朝鮮軍司令官よりの問合せについて

別電 八月四日付在奉天吉田總領事より田中外務大臣

宛第二二二号

京奉線軍用列車付屬地通過停止に關する關東軍司令官宛電報

奉天 8月4日後發
本省 8月5日前着

第二二一号(極秘)

朝鮮軍司令官ヨリ帽兒山問題ニ關シ對支那側交渉万一不調ノ場合ニ我措置如何ト去月二十九日電報問合セモアリ依テ一応往電第二〇五号ノ通回電セルカ軍司令官ヨリハ私信ニテ更ニ右拙電中ノ明示手段ニ付差支無クハ承知シ度キ旨折返シ問合セアリ同官ニ於テ交渉不調ニ付スル我措置振ニ付懸念スルハ誠ニ尤ト存セラルル處關東軍司令官へハ鉄道付屬地守備ノ關係上一応別電第二二二号ノ通電報シ置キタリ右ト同一ニ朝鮮軍司令官ヘモ電報シテ差支無キヤ御差支ノ場合ニハ本省ヨリ同官へ然ル可ク電報ヲ請フ

(別電)

奉天 8月4日後發
本省 8月5日前着

第二二七号(至急)(極秘)

帽兒山問題對策トシテ学生団及民衆ヲ指嗾シテ排日的示威運動ノ計画中トノ風聞アリ奉天票下落不当課稅等ノ結果普通取引阻碍ノ今日商売ラシキ取引ハ兵工廠關係ニ過キサレ

関東軍司令官宛電報左ノ通

第二二二号(極秘)

関東軍司令官宛電報左ノ通

本省 8月8日前着

往電第二二五号ニ關シ

軍隊の示威的演習は予定通り終了すべきこと
および明示的手段につき朝鮮軍司令官に回答

方稟請について

奉天 8月8日前着
本省 8月8日後着

二 安東領事館帽兒山分館設置問題

ハスル示威運動ハ奉軍自ラ傷ツクニ終ルヘキモ我軍隊ノ示威演習ノ為ニ地方官民恐怖ノ結果支那官憲トシテハ前後ノ思慮ナク考ヘ出シサウナル苦策ニ有之仮令空騒キニ終ルモ彼等ニ何等カノロ実ヲ与フルハ面白カラサルニ付演習ハ此儘予定ノ通本月十日ヲ以テ終了軍隊引揚ケノコトトシ朝鮮軍司令官ヘハ示威的演習ニ依リテ地方ニ与ヘタル威嚇ニ乘シ北京及奉天ニ於テ交渉ヲ継続スルト共ニ懸案交渉ノ情況ニ応シ満鉄付属地内支那軍々用列車ノ阻止ヲモ為シ以テ支那側ノ反省ヲ促ス(五五文書)ヘキ旨御差支ナクハ本省ヨリ電報御内示相成度ク往電第二二一号ニ閑シ本官ヨリハ軍司令官ニ対シ直接回答ノ權限ナク去リトテ之迄ノ行為ニ対シ打捨置キ兼ヌレハ本省ヨリ回答アル様取計ヘリト一応電報シ置キタリ

57 昭和二年八月十五日 在安東岡田領事より
在安東 岡田 兼一（印）
機密第三三四号
（8月22日接受）
帽兒山分館問題に関する田中副領事と臨江県
知事との会見顛末について
（8月22日接受）
田中副領事ニハ酷暑ノ折柄久シキ御滞在ニテ御苦勞ノ程御察シスト冒頭シ領事館設置問題ニ関シテハ貴官モ御承知ノ通自分ハ一地方ノ小官吏ナルヲ以テ上司ノ命令ナキ限り独断ニテ迎フルコト能ハス而モ敝國ハ民主國ナレハ民意ヲ尊重スル意味ニ於テ本件ニ対スル地方人民ノ示威運動ノ如キモ吾々地方官トシテ取締ノ徹底ヲ期シ得サル状況ニアルヲ以テ御諒察アリタシ

袁 知 事
田中副領事
田中副領事臨江県知事ト会見顛末ニ関スル件
本件ニ関シ最近平安北道知事ヨリ奉天總領事並ニ本官ニ宛テタル情報ニ拠レハ田中副領事一行十一名ハ八月四日正午一区文化村分駐所ニ於テ袁知事、吳警察所長等六名ノ一行ト会見セルカ右ハ客月二十七、八日來支那側ヨリ会見方懲憲アリシニ對シ田中副領事ハ体克ク拒絶シ居タルヲ前田採木公司分局長ノ斡旋ニテ会見スルニ至リタル趣ナリ双方会見ノ模様左ノ如シ

自分ハ日本政府ヨリ帝国領事トシテ帽兒山駐在ヲ命セラレ久シク中江鎮ニ滯在シ居レルカ我領事館ニ対スル貴国人ノ行為ハ甚々不都合ニシテ就中帝国政府カ帽兒山領事分館ニ充當スル目的ヲ以テ買受ケタル家屋ヲ勝手ニ破壊シタルハ如何ナル理由ナリヤ元來右家屋ニ対シテハ貴國ノ責任トシテ正當ニ保管スルヲ至当ト思料スルモノナリ自分ハ職務ノ關係上二十余年間貴国各地ニ居住シ居レルカ嘗テ貴国人ニシテ無謀ニモ日本政府ノ家屋ヲ破壊セル事實ヲ聞カス

袁 知 事

當時自分ハ知事公署ニ居ラサル為メ詳細不明ナルモ領事分館設置問題ニ激昂セル一般地方民ハ家主王某カ密ニ家屋ヲ日本人ニ売渡シタル事實ヲ聞知シ日本政府ニ於テ買受ケタル家屋トハ知ラス王某ニ対スル憤慨ノ余り破壊シタルモノナリ又事實該土地家屋ヲ貴國政府ニ於テ買受ケタリト主張セラルモ敝國ノ法規ニ依レハ正式ノ手續ヲ履行シタルモノニアラサルヲ以テ未タ公式ニ貴國政府ノ所有ト認メ難シ

田中副領事

該家屋ニ付テハ去ル五月二十九日敵方ヨリ貴官宛送付シ

外務大臣男爵 田中 義一殿

田中副領事臨江県知事ト会見顛末ニ關スル件

タル書類（同日斎藤警部ヨリ臨江県警察所某区官ニ手交シタル家屋売渡契約証明書）中ニ記載シアリタル筈ナレハ我領事館ニ属スル家屋ナルコトヲ全然知ラサル理由ナシ且ツ貴官ノ主張サルルカ如ク手続上ニハ欠陥ナシトセサルモ之ヲ理由トシテ勝手ニ破壊スルカ如キハ無謀ノ甚シキモノニシテ本件ニ關シテハ我政府ヨリ嚴重抗議アルモノト思料ス
袁 知 事
該家屋ノ一件ニ対シテハ今後相互政府間ニ於テ協議ノ上何分ノ措置アルヲ待ツ外ナカルヘシ要スルニ當方トシテハ政府ノ命タニアラハ本職始メ在帽官民ハ双手ヲ挙テ貴官等ヲ歓迎スルモノナリ

東邊道尹公署清鄉委員翟秉鈞

自分ハ上司ノ命ニヨリ帽兒山ニ於ケル日本領事館設置問題ニ關シ事實調査ノタメ來帽シタルモノナルカ來帽ノ初頭ニ當リ本件ニ対スル民衆ノ激烈ナル反対示威運動ヲ目撃シ再三日支親善上惡影響ヲ釀成スルコトナキヤヲ慮リ中止方ヲ勧告シタルモ激昂セル民衆ハ更ニ反省ノ色ナク益々深刻トナリ隣接各県ト連絡ヲ保チ請願団ヲ組織シ大元帥宛直接請願電報ヲ發シタル結果如斯返電（返電要旨左記）アリタ

二 安東領事館帽兒山分館設置問題

ルヲ以テ地方的解決ハ到底困難ナルへク今後両国政府間ノ交渉ニ俟ツノ外ナシト信ス

田中副領事

今日トナリテハ領事トシテノ吾々ノ意志ハ兎ニ角我政府ニ於テハ頗ル鞏固ナル態度三出ツヘキ方針ナルカ如ク軍隊

ノ行動モ之ニ依ルモノナラント思料セラル從テ貴国人力如何ニ多人数ニテ示威運動ヲ続クルトモ吾々領事館員ニハ些ノ影響ヲ感セス貴方ニ於テハ上司ノ命令アリシ時ハ地方ノ民衆運動ノ解決ハ如何

袁知事及吳警察所長

上司ノ命令アラハ本日ニテモ領事館ノ設置ハ容易ナリ

田中副領事

貴國ト鮮側トノ交通ヲ本件発生以前ノ如ク何等懸念ナカラシムル様尽力ヲ望ム

袁知事

両国ノ交通ニ関シテハ今後最善ノ便宜ヲ図ルヘキモ要スルニ以上ノ如クニシテ両国政府ノ交渉解決ヲ俟ツ外ナシ

右ニテ同日ノ会見終リタルカ当日ハ午前十一時ヨリ午後五時迄帽兒山市内ニ於テ市民学生約五百名ニ分レ知事衙

58 昭和2年8月20日 在帽兒山田中副領事より
田中外務大臣宛
帽兒山分館問題交渉に関する吉田總領事への
提案について
（8月27日接受）
昭和2年8月二十日
在帽兒山（中江鎮滯在）
本機密第二一号
本信写送付先 在支公使
國務院内閣

副領事 田中 作（印）

外務大臣男爵 田中 義一殿

二十万元ニ及フ
一、民衆直接運動

帽兒山分館問題交渉ニ關シ提案報告ノ件
帽兒山開館ニ関シ曩ニ御訓命ニ依リ出奉ノ際交渉上ノ参考ニモト存シ安東領事ト協議ノ上別紙写ノ通り吉田總領事ニ提案致シ置キタルニ付御查閱相成度此段報告ス

追テ本案写ハ當時安東領事ヘモ手渡シ置キタルニ付本信写送付ヲ省略ス

本信写送付先 在支公使

（別 紙）

帽兒山開館問題ニ関連スル臨江官憲等ノ不法行為
一、移住鮮人退去強要

帽兒山市街居住鮮人十六戸ハ既ニ全部退去セシメラレ其ノ他同県内ニ於ケル農民ノ農耕半途ニシテ退去ヲ命セラレ已ムナク家財ヲ売払ヒテ他県ヘ移住シ糊口ニ窮シ居ルモノ百名以上ト算セラレ今後モ同様手段ヲ続行スルモノト認メラル右ハ知事警察所長等ニ於テ家主及地主ヲ强迫シ此ノ挙ニ出テ居ルモノナリ此ノ退去強要ハ漸次近接數

県ニ及ヒ通化県ノミニテモ約五十戸二百五十人損害額約

門前ト臨韓門付近トニ集合シ示威運動ヲ敢行スルト共ニ県警察署ニ於テハ臨韓門ヨリ県立第一小学校間ニ約百名ノ巡警ヲ配置シ且ツ市街要路ニ火繩砲四門ヲ据付ケタル趣ナリ

記

大元帥ノ訓令ニ依リ臨江県日本領事分館設置ノ件ニ關シ既ニ國務院及外交部ニ宛テ嚴重交渉方ヲ命シタルカ一方奉天省長ヨリ東三省民衆一帯拒絶抗議ノ意向ナル旨轉報セルヨリ駐日汪公使宛拒絶交渉ノ件訓電ヲ發セリ

尚茲ニ以上ヲ声明ス

一、代償家屋提供
要求条項

二 安東領事館帽兒山分館設置問題

破壊セル家屋ノ代償トシテ事務所応接室及館員十五名ノ
官舎ニ充當シ得ヘキ適當ノモノヲ提供セシムルト共ニ將
來分館家屋新築ノ際ハ便宜ヲ供与セシムルコト

一、分館土地管理ニ関スル便宜供与

分館新築迄ノ間知事ニ於テ右敷地管理ニ対シ充分ナル便

宜ヲ供与スルコト

一、警察所長吳常安更迭

同人ハ其ノ管下ニ属スル數県ノ全部ニ瓦リ友邦タル日本

ニ極メテ惡意アル排日宣伝ヲ為サシメ其ノ管下ノ人民力

帝国及帝国臣民ニ対スル侮辱誹謗等各種明カニ国交ヲ害

スル行動ヲ為スヲ取締ラサルノミナラス却テ之ヲ煽動シ

居レルカ支那側ニ於テモ斯ル官吏トシテ言語同断ノ態度

ハ断シテ之レヲ黙過スヘカラス嚴重ナル処分ヲ求ム

一、民衆運動取締

今回ノ同地方民衆ノ直接行動ハボルシエビキニ類シ国内

平和ヲ紊ルノ端緒トナルノミナラス國際的ニ之レヲ見レ

ハ戦争ノ原因タリ得ヘシ其ノ実況ハ前例ナキ家屋破壊ノ

一事ニ依リ察知セラル今後モ同運動ヲ徹底のニ取締ラシ

メサレハ両国々交ヲ害スルコト重大ナルモノアリト認ム

田中副領事發本官宛電報第一一九号

安東
本省 9月12日前着 発

大臣宛機密第二七号ヲ以テ報告ノ分館家屋ノ件ニ關シ本年

ハ最早修繕可能期間長カラス開館上種々考究ヲ重ねツツア
ル次第ナル処目下帽兒山ニハ空室ニシテ直ニ提供シ得ヘキ

家屋ナク然モ一般民有家屋ハ從来排日運動ヲ使嗾セル關係

上俄ニ明渡シヲ命シ難ク其他複雜ナル事情ニ依リ其提供迄

ニハ相當手間取ルモノト思ハルルカ兎ニ角今後知事トノ交

渉ヲ順調ニ進行スルモノトシテ土地柄防寒設備ヲ主トシ執

務ノミナラス家族共住居ニ堪ヘ得ル程度ノ修繕ヲ要シ入込

ミ迄ニハ一ヶ月以上ヲ要スル見込ナル處一方本日更ニ當業

者ニ就キ確メタル処ニ依レハ本年ハ十月央以後ノ工事ハ不

可能ナル趣ナリ就テハ此際支那政府ヲシテ其責任タル代償

家屋提供ヲ先ツ即時実行セシムルト同時ニ修繕ニ取掛リ本

官等一時特派員トシテ之ニ駐在ノ上開館交渉成立ヲ待ツコ

トノ間ニ交渉開始スルニ至リテハ到底修繕間ニ合ハサルコ

一、退去鮮人ノ復帰及損害賠償

鮮人ノ不当退去処分ニ基ク損害額ハ目下調査中ナルモ通化県ノミニテモ二十万円ヲ超ユ之等損害ハ當然賠償スヘ

キモノト認ム

59 昭和2年9月10日 在安東岡田領事宛（電報）

朝鮮總督府の増員及び閑東庁の中江鎮派遣警

察官の引揚について

本省 9月10日後発

第九一号

奉天發本大臣宛電第二八〇号ニ關シ

朝鮮側ノ增員及閑東庁側ノ出張警察官ハ此際執レモ一応引

揚シメラレ度總督及長官へハ本大臣ヨリ謝礼ヲ兼ネ此旨電

報セリ

北京、奉天、田中ヘ転電アリタシ

60 昭和2年9月12日 在安東岡田領事より 田中外務大臣宛（電報）

帽兒山分館用家屋に関する田中副領事の要望

について

トトナルヘシ然ル場合重要書類モアリ支那旅館等ニ於テハ執務シ能ハス結局同地採木公司分局建物ノ一部ニ二棟乃至三棟ヲ明春迄借用シ開館スルノ外方法ナク又修繕中モ一時同分局建物ニ依リ執務及ヒ住居スルヲ便宜ナリト思料ス

右ニ関シテハ前例モアリ出先キ分局員ノ裁量ニテハ纏り難キ事情モアルニ付何レニシテモ必要（^{マニ}）アリ予メ政府ヨリ公司当局ニ命令決定シ置カルル様御配慮相成度シ

（欄外記入）

措置 本件ハ採木公司側ノ支那側ニ對スル不利益ヲ犠牲トシ

テマテ急速乗込ノ要ナキヲ以テ北京ニ於ケル解決ヲ見ルマテ

現状ヲ維持セシムルコトニシ度旨三浦課長ノ意見也從テ俄ニ

回訓ニ及ハサルモノト認ム 十月二十日記 相場（認印）

61 昭和2年10月4日 在安東岡田領事より 田中外務大臣宛（電報）

帽兒山分館開設のため遲滞なく家屋を提供し
民衆の盲動を取締るよう臨江県知事へ申し入
れ方田中副領事の要望について

本省 10月4日前着

合第二二号

田中副領事發電報第一二六号左ノ通
左ノ通奉天へ転電アリタシ

分館問題ニ関シ支那側ノ手段トシテ今後家屋提供ヲ巧ニ渉
リ延テ再ヒ開館逕延ヲ來サナルヤノ虞アリ且ツ家屋修繕期
間切迫ノ關係モアリ本官ハ交渉成立ヲ待チ不取敢採木分局
建物ニ依リ開館ヲ執行シ一方家屋提供方交渉ヲ開始スル手
筈ニ付遲滞ナク家屋ヲ提供シ併テ民衆ノ妄動ヲ取締ル様秉
込ミ前知事ヘ訓電方特ニ御配慮ヲ請フ

大臣、北京へ転電アリタシ

62 昭和2年10月10日 田中外務大臣より
在安東岡田領事宛(電報)

帽兒山分館開設に関する地方的交渉は北京に
おける交渉の成行を待つて行うべき旨の訓令

本省 10月10日後発
田中外務大臣より
在安東岡田領事宛(電報)

帽兒山分館開設に関する地方的交渉は北京に

おける交渉の成行を待つて行うべき旨の訓令

第一〇三号
(六三文書)
貴電合第二一号ニ閑シ

家屋問題ノ如キハ交渉成立ニ至ラハ如何様トモ解決シ得ヘ
キヲ以テ此ノ際ハ暫ク北京ニ於ケル交渉ノ成行ヲ待ツコト
ト致シ度ク依テ更ニ何分ノ儀申進スル迄分館開設ニ閑スル

ラレ差支無シ

尚當方ノ承知スル所ニ依レハ開館理由ヲ貿易上ノ必要トス
ルニ於テハ支那側ニ於テ反対セサルヘシト申シ居ル由ニ付

ル時期ニ於テ直接同副領事ニ對シ安東へ引揚ケ方電報セ

ラレ差支無シ

但シ右ノ成行ニ顧ミ田中ヲ此上中江鎮ニ滯在セシムル必要無

シト認メラルニ付最少限度ノ館員又ハ警察官ヲ留メ其他

ハ安東迄引揚ケシメ度處貴電第一三一三号張作霖ニ對スル

御開談ノ關係上右ニテ差支無キヤ貴見承知致シタシ

奉天、安東ニ転電アリタシ

64 昭和2年12月17日 田中外務大臣より
在中国芳沢公使宛(電報)

田中副領事を安東まで引揚げしめることに關

する意見問合せについて

本省 12月17日後発
田中外務大臣より
在中国芳沢公使宛(電報)

第五六八号
(六三文書)
往電第四五五号ニ閑シ

其後ノ成行ニ顧ミ田中ヲ此上中江鎮ニ滯在セシムル必要無
シト認メラルニ付最少限度ノ館員又ハ警察官ヲ留メ其他
ハ安東迄引揚ケシメ度處貴電第一三一三号張作霖ニ對スル
御開談ノ關係上右ニテ差支無キヤ貴見承知致シタシ

奉天、安東ニ転電アリタシ

65 昭和2年12月19日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

田中副領事の引揚は楊宇霆、劉省長等の意向

を待つべき旨回答について

此ノ種地方的交渉ハ見合サレ度ク田中ヘモ此ノ旨可然伝達
アリ度シ

北京、奉天へ転電アリ度シ

63 昭和2年10月15日 田中外務大臣より
在中国芳沢公使宛(電報)

帽兒山分館開設問題交渉の便宜のため田中副
領事を一時安東に引揚しめて差支えないこと
および交渉解決の方針について

本省 10月15日後発
田中外務大臣より
在中国芳沢公使宛(電報)

第四五五号

二 安東領事館帽兒山分館設置問題

右御含ミ置相成度

又本件交渉カ奉天ニ移サレタル上ハ左ノ方針ニ依リ解決シ
度キ意向ナルニ付此レ亦御含ミ置相成度

一、分館用予定家屋カ破壊セラレタルニ顧ミ支那側ヲシ
テ代用家屋ヲ提供セシムルコト

右ノ場合相当ノ借家料ヲ支払フコトニ異存ナシ

二、破壊家屋ノ損害ハ支那側ヲシテ當然賠償セシム可キ
筋合ナルモ追テ分館新築ノ際ハ右家屋ハ取扱ハル可キ
モノナルヲ以テ交渉上ノ都合ニ依リテハ強イテ右賠償
ヲ取付クル必要無キコト

但シ右ノ場合ニ於テモ本件暴行ニ付支那側ヲシテ陳謝
セシメ且形式的ニテモ責任者ノ責任ヲ問フノ必要アル
可シ

三、北京及奉天ノ交渉ニ於テ支那側カ分館開設ニ同意ヲ
与フルモ帽兒山地方ノ排日運動ハ主トシテ官憲ノ差金
館ノ見込無キ處同地ノ排日運動ハ主トシテ官憲ノ差金
ニ因ルモノト被認ニ付支那側ヲシテ右官憲ノ妄動停止
方ニ付切実ナル措置ヲ講セシメ出来得レハ臨江県知事
及警察所長ヲ更迭セシムルヲ要ス(尤モ警察所長ハ既

本省 12月19日後着

第一三三六号

(六四文書)

貴電第五六八号二関シ

張作霖トノ交渉ハ往電第一三一三号ノ通りナルカ張ハ問題ヲ充分諒解シ居ラサル關係モアリ今一応楊宇霆及十八日着

燕セル劉省長等ノ意向ヲモ当リ見ル必要アルニ付田中ノ引揚ハ夫レ迄待タシムル様致度シ

奉天、安東へ転電セリ

〔編注 本件関連文書は事項三にもあり参照されたい〕

三 满蒙懸案解決交渉

66 昭和2年1月25日

在奉天吉田總領事より

幣原外務大臣宛

吉海鉄道問題に関する張作霖の回答および二

れに対する反駁について

(1月29日接受)

機密公第四九号 昭和2年1月二十五日

在奉天

總領事 吉田 茂(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吉海線ノ件

本件ニ關シ今般別紙甲号写ノ通り張作霖ヨリ回答アリ別紙

乙号ノ通リ反駁シ置ケリ右報告ス

本信写送付先 在支公使、吉林總領事

(別紙甲号) 政字第一号

照会

鎮威上將軍節制東三省軍政督弁奉天軍務善後事宜公署為照
復事准

貴總領事照會第七四八号内開吉林官憲計画敷設吉林至海龍
間之鐵路認為藐視條約之規定希速為調查如果属实請転飭吉
林官憲中止進行又准

貴總領事照會第七八一号内開此案調查結果請迅見復各等因
查吉林省府籌集官商資本投入奉海路請求為延長之敷設事
誠有之奉海路敷設之初承

貴總領事転陳

貴國政府声明承認當經正式表示在案查東省地面之開發
貴國政府及

貴總領事素抱協助之心此次奉海路延長即為開發地面之計想
貴國政府對此已經承認之奉海路為開發地面而計画延長必能
樂於贊同且奉海路之敷設無異為南滿路添一支綫茲計画延長
即無異為南滿路營業上計画發展

貴國政府自應有以輔助提携之相應照復即希